

# 勉誠出版

## 東方学会・日本中国学会 会員様対象 特別割引のご案内

全品**20%OFF**

割引クーポンコード: **652d46859d**

(使用期限: ~2021年7月31日)

謹啓

向暑の候、日頃より弊社をお引き立ていただきまして、誠にありがとうございます。  
このたび、会員様対象の特別割引セールを行うことになりました。  
当リストの新刊書籍をはじめ、勉誠出版タイトル全品が対象となります。  
この機会にぜひともご購入をご検討くださいますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

謹白

### ●ご注文について

- 弊社ウェブサイトよりご注文を承ります。

<https://bensei.jp>

各種クレジットカード、paypal(クレジットカード・デビットカード)でのご決済が可能です。  
ぜひご利用くださいませ。

割引クーポンコード:**652d46859d** (使用期限: ~2021年7月31日)

**こちらの10ケタの英数字を、必ずご入力ください!**

未入力の場合、割引が適用されず、定価でのご請求となります。ご了承ください。

- メール添付、FAX、電話でもお受けしております。  
ご氏名・ご住所・電話番号・公費/私費の区別・公費の場合は必要書類・宛名・日付の有無をお知らせください。
- 3000円以上のお買い上げで、国内全国送料サービス**  
(※ 3000円未満の場合は送料一律 300円。なお日本国外への配送に関しては、実費を頂戴します)

**\*ウェブサイト以外の方法によるご注文の際は、  
東方学会・日本中国学会の会員であることをお知らせください。**

### ●ご連絡先

Mail [info@bensei.jp](mailto:info@bensei.jp)

電話 03-5215-9021

FAX 03-5215-9025

在庫僅少本セール同時開催中!  
リストを併せてご覧ください。

より詳細な「研究書新刊・近刊のご案内」が  
右のQRコードからダウンロードいただけます。



最新の出版総合目録は  
右のQRコードから  
ダウンロードいただけます。



# 勉誠出版 注文書

Email info@bensei.jp FAX 03-5215-9025

ご送付先(氏名・住所・電話番号)

※メール、FAX、郵送にてご注文を承ります。  
※弊社ホームページのホーム画面上部のバナー「研究書 新刊・近刊のご案内」、  
もしくはお知らせ欄「研究書 新刊・近刊のご案内」より、注文書(PDFかエクセル)を  
ダウンロードしてご記入のうえ、メールかFAXにて、お送りください。  
※メールやFAXの送り状の本文に直接ご注文内容をご記載いただくかたちでも結  
構です。

通信欄 ※お支払い方法(公費・私費)、必要書類はこちらにご記入ください

※ISBNは978-4-585と末尾のチェックデジットを省略しています。

書名	編著者	刊行年月	ISBN	本体価格	税込価格	割引価格	冊数
<b>◆近刊(ご予約受付中!)</b>							
百里城を解く—文化財継承のための礎を築く(仮)	高良倉吉 監修/島村幸一 編	2021/5	32001	3,800	4,180	3,344	
書物・印刷・本屋—日中韓をめぐる本の文化史	藤本幸夫 編	2021/6	30002	16,000	17,600	14,080	
中世寺院の仏法と社会	永村真 編	2021/5	31001	12,000	13,200	10,560	
創られた由緒—近世大和国諸社と在地神道家	向村九音 著	2021/6	31002	8,000	8,800	7,040	
古文書研究 第91号	日本古文書学会 編	2021/6	32401	3,800	4,180	3,344	
もう一度読みたい古典文学	三毛晶子 編	2021/6	39001	2,400	2,640	2,112	
中国史書入門 現代語訳 北齊書	氣賀澤保規 監修/池田恭哉・岡部毅史・梶山智史・倉本尚徳・田熊敬之 訳	2021/夏	29612	6,000	6,600	5,280	
坂口安吾大辞典(仮)	安藤 宏・十重田裕一・大原祐治 編集代表	2021/夏	20079	15,000	16,500	13,200	
<b>◆事典・総記</b>							
江戸川乱歩大辞典	落合教幸・阪本博志・藤井淑楨・渡辺憲司 編	2021/3	20080	12,000	13,200	10,560	
文化情報学事典	村上征勝 監修/金明哲・小木曾智信・中国聡・矢野桂司・赤間亮・阪田真己子・宝珍輝尚・芳沢光雄・渡辺美智子・足立浩平 編	2019/12	20071	18,000	19,800	15,840	
<b>◆歴史・文化財・美術史・思想史</b>							
古文書への招待	日本古文書学会 編	2021/1	22277	3,000	3,300	2,640	
増補改訂新版 日本中世史入門—論文を書く	秋山哲雄・田中大喜・野口華世 編	2021/2	22280	3,800	4,180	3,344	
古文書の様式と国際比較	小島道裕・田中大喜・荒木和憲 編 国立歴史民俗博物館 監修	2020/2	22272	7,800	8,580	6,864	
日本の表装と修理	岩崎奈緒子・中野慎之・森道彦・横内裕人 編	2020/3	20073	7,000	7,700	6,160	
古文書研究 第90号	日本古文書学会 編	2020/12	22417	3,800	4,180	3,344	
渤海の古城と国際交流	清水信行・鈴木靖民 編	2021/2	22289	14,000	15,400	12,320	
古代の日本と東アジア 人とモノの交流史	鈴木靖民 著	2020/7	22279	10,000	11,000	8,800	
新羅中古期の史的研究	武田幸男 著	2020/7	22278	12,000	13,200	10,560	
大嘗祭—隠された古層	工藤隆・岡部隆志・遠藤耕太郎 編	2021/1	21057	3,800	4,180	3,344	
中世の博多とアジア	伊藤幸司 著	2021/2	22300	9,500	10,450	8,360	
戦国合戦図屏風の歴史学	高橋修 著	2021/2	22301	9,000	9,900	7,920	
金沢文庫古文書 喫茶関係編年資料集	尾井晋 編	2020/9	22288	10,000	11,000	8,800	
鷹狩の日本史	福田千鶴・武井弘一 編	2021/2	22297	3,800	4,180	3,344	
中近世移行期の文化と古活字版	高木浩明 著	2020/12	20077	15,000	16,500	13,200	
歴博甲本洛中洛外図屏風の研究	小谷量子 著	2020/2	22257	10,000	11,000	8,800	
近世大名墓の考古学—東アジア文化圏における思想と祭祀	松原典明 編	2020/6	22276	12,000	13,200	10,560	
儒教儀礼と近世日本社会—開学派の『家礼』実践	川淵雅信 著	2020/7	21056	10,000	11,000	8,800	
勤番武士の江戸滞在記—国枝外右馬江戸詰中日記	岩瀬令治 編	2021/5	32000	10,000	11,000	8,800	
生きるための地域史—東海地域の動態から	中村良吾・渡辺尚志 編	2020/10	22290	8,000	8,800	7,040	
日本近世社会と町役人	望月良親 著	2020/2	22266	6,000	6,600	5,280	
近世豪商・豪農の(家)経営と書物受容—北奥地域の事例研究	鈴木淳世 著	2020/2	22265	10,000	11,000	8,800	
近世都市の常態と非常態—人為的自然環境と災害	渡辺浩一/マシュー・デーヴィス 編	2020/2	22267	7,000	7,700	6,160	
江戸日本橋商人の記録—(にんべん)伊勢屋高津伊兵衛家の古文書	澤登寛聡・筑後則 編	2020/3	22269	11,000	12,100	9,680	
廻る「豊後切支丹史料」—パチナ図書館所蔵マレガ氏収集文書より	松井洋子・佐藤孝之・松澤克行 編	2020/2	22261	12,000	13,200	10,560	
琉球船漂着者の「聞書」世界—『大島筆記』翻刻と研究	島村幸一 編	2020/3	29197	10,000	11,000	8,800	
新彰義隊戦史	大蔵八郎 編	2020/9	22285	7,000	7,700	6,160	
明治の一発屋芸人たち—珍芸四天王と民衆世界	永嶺重敏 著	2021/1	27058	3,500	3,850	3,080	
アーネスト・サトウと蔵書の行方—『増補浮世絵類考』の来歴をめぐって	小山勝 著	2020/11	20078	4,200	4,620	3,696	
土地の記憶から読み解く早稲田—江戸・東京のなかの小宇宙	ローザ・カーロリ 著/大内紀彦、フィリッポ・ドルネッティ 訳	2021/3	22299	2,700	2,970	2,376	
ロマンフ王朝時代の日露交流	東洋文庫・生田美智子 監修/牧野元紀 編	2020/8	22286	3,800	4,180	3,344	
スイス使節団が見た幕末の日本—ブレンフルド日記1862-1867	横浜市ふるさと歴史財団・ブレンフルド日記研究会 編	2020/6	22275	9,800	10,780	8,624	
日本建築の歴史的評価とその保存	山岸常人 著	2020/2	22268	17,000	18,700	14,960	
日本画の所在—東アジアの視点から	北澤憲昭・古田亮 編	2020/4	27055	6,500	7,150	5,720	
パブリック・ヒストリー入門—開かれた歴史学への挑戦【オンデマンド新版】	菅憲一・北條勝貴 編	2021/5	82254	4,800	5,280	4,224	
新装版 唐物と東アジア—舶載品をめぐる文化交流史	河添房江・皆川雅樹 編	2021/4 二刷(2016/2初版)	22140	2,000	2,200	1,760	
観相の文化史	相田満 著	2021/2	29203	9,000	9,900	7,920	
改訂新版 中国学入門—中国古典を学ぶための13章【オンデマンド版】	二松学舎大学文学部中国文学科 編	2021/4	80056	1,600	1,760	1,408	
宋代中国都市の形態と構造	伊原弘 著	2020/6	22069	4,500	4,950	3,960	
描かれたマカオ—ダーウェント・コレクションにみる東西交流の歴史	貴志俊彦・朱益宜・黄淑薇 編	2020/4	22262	22,000	24,200	19,360	
上海におけるプロテスタント—現代中国の都市と宗教空間をめぐる変遷	村上志保 著	2020/5	21055	6,000	6,600	5,280	
ラジオの技術・産業の百年史—大衆メディアの誕生と変遷	岡部匡伸 著	2021/3二刷(2020/12初版)	22295	5,400	5,940	4,752	
絶滅危惧種を喰らう	秋道智彌・岩崎望 編	2021/1	24014	3,200	3,520	2,816	
パリ・ノートルダム大聖堂の伝統と再生—歴史・信仰・空間から考える	坂野正則 編	2021/3	31000	8,000	8,800	7,040	
メソアメリカ文明ゼミナール	伊藤伸幸 監修/嘉幡茂・村上達也 編	2021/1	22296	5,000	5,500	4,400	
現代ドイツへの視座—歴史学的アプローチ 2 ナチズム・ホロコーストと戦後ドイツ	石田勇治・川喜田敦子 編	2020/9	22513	6,000	6,600	5,280	
現代ドイツへの視座—歴史学的アプローチ 3 ドイツ市民社会の史的展開	石田勇治・川喜田敦子・平松英人・辻英史 編	2020/9	22514	6,000	6,600	5,280	
「本読み」の民俗誌 交差する文字と語り	川島秀一 著	2020/6	23081	3,500	3,850	3,080	
メディアのなかの仏教—近現代の仏教的人間像	森賞 編	2020/5	21054	7,500	8,250	6,600	
渋沢敬三とアテック・ミュージアム—知の共鳴が創り上げた人文学の理想郷	加藤幸治 著	2020/1	22263	3,500	3,850	3,080	
荒れ野の六十年—東アジア世界の歴史地政学	與那覇潤 著	2020/1	22264	3,200	3,520	2,816	
<b>◆古典文学・文学史</b>							
物語文学の諸相と展開	中野幸一 著	2021/3	39000	12,000	13,200	10,560	
中世和歌論—歌学と表現と歌人	中川博夫 著	2020/11	29199	12,000	13,200	10,560	
和漢朗詠集とその享受 増訂版	三木雅博 著	2021/1	29202	15,000	16,500	13,200	
真田幸弘点取百韻 翻刻と解題	玉城司・小幡伍 編著	2021/2	29204	9,000	9,900	7,920	
中国古典文学に描かれた劇・井戸・簞—民俗学的視点に基づく考察	山崎藍 著	2020/11	29200	9,000	9,900	7,920	
韓国・朝鮮説話学の形成と展開	金廣植 著	2021/2	29201	11,000	12,100	9,680	
挑発する軍記	大津雄一 著	2020/10	22292	3,800	4,180	3,344	
江戸庶民のまじない集覧—創意工夫による生き方の智慧	長友千代治 著	2020/10	20076	6,000	6,600	5,280	
医学・科学・博物 東アジア古典籍の世界	陳捷 編	2020/2	20072	12,000	13,200	10,560	
水門—言葉と歴史 第二十九号	水門の会 編	2020/1	22443	3,500	3,850	3,080	
本朝文粹抄 六	後藤昭雄 著	2020/2	29224	3,200	3,520	2,816	
仙洞句題五十首・水無瀬殿恋十五首歌合 全注訳	石川一 編	2020/3	29195	10,000	11,000	8,800	

書名	編著者	刊行年月	ISBN	本体価格	税込価格	割引価格	冊数
南方熊楠と日本文学	伊藤慎吾 著	2020/3	22270	7,000	7,700	6,160	
幕末明治の社会変容と詩歌	青山英正 著	2020/2	29196	10,000	11,000	8,800	
明治の教養—変容する(和)〈漢〉〈洋〉	鈴木健一 編	2020/1	29193	7,500	8,250	6,600	
杜甫研究年報 第三号	日本杜甫学会 編	2020/5	29443	2,000	2,200	1,760	
杜甫研究年報 第四号	日本杜甫学会 編	2021/4	39444	2,000	2,200	1,760	
お伽草子超入門	伊藤慎吾 編	2020/7	29188	2,800	3,080	2,464	
白居易研究年報 最終号・第20号 特集 歌舞音楽—附 日本国内白居易研究文献解題目録	白居易研究会 編	2020/9	07098	9,000	9,900	7,920	
吉田松陰と学人たち	徳田武 著	2020/9	22291	10,000	11,000	8,800	
漱石文体見本帳	北川扶生子 著	2020/12	9189	2,800	3,080	2,464	
ビジュアル資料でたどる 文豪たちの東京	日本近代文学館 編	2020/4	29163	2,800	3,080	2,464	
【鉄幹晶子全集40】鉄幹晶子全集 別巻8—拾遺篇 書誌・年譜	逸見久美ほか 編	2021/5	01093	9,000	9,900	7,920	
同性愛文学の系譜—日本近現代文学におけるLGBT以前／以後	伊藤氏真 著	2020/2	29191	2,800	3,080	2,464	
平川祐弘決定版著作集 ダンテ『神曲』講義	平川祐弘 著	2020/2	29422	10,000	11,000	8,800	
平川祐弘決定版著作集 西洋人の神道観—日本人のアイデンティティを求めて	平川祐弘 著	2020/3	29416	8,000	8,800	7,040	
平川祐弘決定版著作集 東の自生観と西の創造観	平川祐弘 著	2020/3	29428	4,000	4,400	3,520	
平川祐弘決定版著作集 開国の作法	平川祐弘 著	2020/4	29429	4,000	4,400	3,520	
平川祐弘決定版著作集 アーサー・ウェイリー『源氏物語』の翻訳者	平川祐弘 著	2020/7	29424	14,000	15,400	12,320	
アメリカ現代詩入門—エズラ・パウンドからボブ・ディランまで	原成吉 著	2020/2	29192	3,500	3,850	3,080	
100人の作家で知る ラテンアメリカ文学ガイドブック	寺尾隆吉 著	2020/3	29194	2,800	3,080	2,464	
<b>◆日本語学・言語学</b>							
ベトナム語空間ダイクシスとその展開—指示詞から文末詞・感動詞へ	安達真弓 著	2021/5	38001	10,000	11,000	8,800	
日本語文学論の挑戦—表記・文字・文献を考えるための17章	加藤重広・岡嶋裕剛 編	2021/3	38000	7,000	7,700	6,160	
コーパスと近代日本語書き言葉の一人称代名詞の研究	近藤明日子 著	2021/2	28052	8,500	9,350	7,480	
日本書紀声点本の研究	鈴木豊 著	2020/3	28048	14,000	15,400	12,320	
龍谷大学図書館蔵 黒谷上人語燈録 元亨版 翻刻および総索引	佐々木勇 主編	2020/4	28050	18,000	19,800	15,840	
近世後期テニヲハ論の展開と活用研究	遠藤佳那子 著	2020/1	28047	8,000	8,800	7,040	
論究 日本近代語 第1集	日本近代語研究会 編	2020/3	28521	15,000	16,500	13,200	
サハ語文法—統語的派生と言語類型論的特異性	江崎冬生 著	2020/4	28049	9,800	10,780	8,624	
続 岐点の軌跡 老いてなお岐点あり—老いてなお岐点あり	北原保雄 著	2020/4	28503	4,500	4,950	3,960	
<b>◆図書館学・アーカイブ</b>							
大宅壮一文庫解体新書—雑誌図書館の全貌とその研究活用	阪本博志 編	2021/5	30001	3,500	3,850	3,080	
日本の図書館建築—建築からプロジェクトへ	五十嵐太郎・李明喜 編	2021/3	20074	3,500	3,850	3,080	
ささえあう図書館—「社会装置」としての新たなモデルと役割【オンデマンド版】	青柳英治 編著／岡本真 監修	2021/3	90039	1,800	1,980	1,584	
【デジタルアーカイブ・ベーシック3】自然史・理工系研究データの活用	井上透 監修／中村寛 責任編集	2020/4	20283	2,500	2,750	2,200	
【デジタルアーカイブ・ベーシック4】アートシーンを支える	高野明彦 監修／嘉村哲郎 責任編集	2020/12	20284	2,500	2,750	2,200	
【デジタルアーカイブ・ベーシック5】新しい産業創造へ	時実象一 監修／久永一郎 責任編集	2021/5	20285	2,500	2,750	2,200	
【ライブラリーぶっくす】司書のお仕事2 本との出会いを届けます	大橋崇行 著／小曾川真貴 監修	2020/10	20075	1,800	1,980	1,584	
【ライブラリーぶっくす】変化する社会とともに歩む学校図書館	野口武悟 著	2021/4	20081	2,200	2,420	1,936	
<b>◆統計学</b>							
この本を書いたのは誰だ？—統計で探る“文章の指紋”	村上征勝 著	2020/4	29198	1,800	1,980	1,584	
R・Pythonによる 統計データ科学	杉山高一・藤越康祝 監修	2020/2	24011	2,700	2,970	2,376	
<b>◆アジア遊学</b>							
242 中国学術の東アジア伝播と古代日本	榎本淳一・吉永匡史・河内春人 編	2020/1	22708	2,800	3,080	2,464	
243 中央アジアの歴史と現在—草原の叢書	松原正毅 編	2020/3	22709	2,400	2,640	2,112	
244 前近代東アジアにおける〈術数文化〉	水口幹記 編	2020/3	22710	3,200	3,520	2,816	
245 アジアの死と鎮魂・追善	原田正俊 編	2020/3	22711	2,800	3,080	2,464	
246 和漢のコードと自然表象—十六、七世紀の日本を中心に	島尾新・宇野瑞木・亀田和子 編	2020/4	22712	2,800	3,080	2,464	
247 移動するメディアとプロバガンダ—日中戦争期から戦後にかけての大衆芸術	西村正男・星野幸代 編	2020/4	22713	2,800	3,080	2,464	
248 明治が歴史になったとき—史学史としての大久保利謙	佐藤雄基 編	2020/6	22714	2,800	3,080	2,464	
249 漢学とは何か—漢唐および清中後期の学術世界	川原秀城 編	2020/7	22715	2,800	3,080	2,464	
250 酔いの文化史—儀礼から病まで	伊藤信博 編	2020/8	22716	2,800	3,080	2,464	
251 仏教の東漸と西漸	荒見泰史 編	2020/9	22717	2,800	3,080	2,464	
252 中世日本の茶と文化—生産・流通・消費をとおして	永井晋 編	2020/9	22718	2,800	3,080	2,464	
253 ポストコロナ時代の東アジア—新しい世界の国家・宗教・日常	玄武岩・藤野陽平 編	2020/9	22719	2,800	3,080	2,464	
254 東アジアの歌と文字	真下厚・遠藤耕太郎・波照間永吉 編	2021/2	32500	2,800	3,080	2,464	
255 東アジアにおける知の往還	国文学研究資料館・高麗大学校グローバル日本研究院 共編	2021/3	32501	2,800	3,080	2,464	
<b>◆書物学</b>							
第18巻 蔵書はめぐる 海外図書館の日本古典籍コレクション	編集部 編	2020/7	20718	1,800	1,980	1,584	

藤本幸夫

〔編〕

（ふじもと・ゆきお）富山大学名誉教授、麗澤大学客員教授。専門は朝鮮語学・朝鮮文献学。二〇二一年学士院賞、恩賜賞を受賞。著書に『日本現存朝鮮本研究 集部』（京都大学学術出版会、二〇〇六年）、『日韓漢文訓読研究』（編著、勉誠出版、二〇一四年）、『龍龕手鏡（鑑）研究』（編著、麗澤大学出版会、二〇一五年）、『日本現存朝鮮本研究 史部』（韓国東国大学出版部、二〇一八年）などがある。

# 書物・印刷・本屋

図版点数  
390超

## 日中韓をめぐる 本の文化史

- 第一部 書物のかたち・書物のジャンル
- 第二部 印刷・活字・技術
- 第三部 本屋・商業出版・蔵書

〈本書の特色〉

中国、朝鮮半島、日本に伝播した書物文化は、各国各地に於いて民間の商業出版——坊刻本——の深淵かつ絢爛な世界を形づくっていった。書籍の出版から販売・読書にいたる具体的な諸相、即ち潤筆料・版下・刻版・彫師・摺師・版木・料紙・装幀・本屋・貸本屋・書価・出版部数・流通・読者・版株・印刷術・禁書・和刻・出版統制等々を中心に、書物史研究を牽引する珠玉の執筆者35名による知見を集結、390点を超える図版資料を収載した

- 書物のジャンル、形態、印刷技術、本屋や商業出版の諸相など、日中韓の書物文化史を詳細に記述したレファレンスツールとして最適の百科事典的書籍。
- 書誌学・出版史・印刷史など、書物研究の第一線を走るオールスターが集結した画期的な一冊。
- 学士院賞、ゲスナー賞、日本出版学会賞、角川源義賞、岩瀬弥助記念書物文化賞等、様々な受賞歴を有する執筆陣が寄稿。
- 390点を超える貴重な図版資料を収載。

日中韓の知の世界を彩る  
書物文化を知るためのエンサイクロペディア。

定価一七、六〇〇円（税込）

（本体一六、〇〇〇円）

B5判上製カバー装・八九六頁

二〇二一年六月刊行

ISBN978-4-585-30002-1 C3000

### 執筆者一覽

- 第一部：佐々木孝浩・柏崎順子・木村八重子・棚橋正博・佐藤至子・鈴木圭一・石上阿希・大久保純一・湯浅淑子・鈴木俊幸・万波寿子・鈴木達彦
- 第二部：住吉朋彦・堀川貴司・長澤孝三・豊島正之・林進・高木浩明・森上修・小秋元段・渡辺守邦・橋口侯之介・永井一彰
- 第三部：鈴木俊幸・塩村耕・長友千代治・岡村敏二・大沼晴暉・大木康・大塚秀高・金文京・上原究一・高橋智・藤本幸夫・李胤錫・全相昱

…詳細目次は裏面をご覧ください。

書名	部数
書物・印刷・本屋 日中韓をめぐる本の文化史	定価17,600円・本体16,000円 B5判上製カバー装・896頁 2021年6月刊行 ISBN978-4-585-30002-1 C3000
藤本幸夫 [編]	部
ご送付先ご住所（通信欄）	

勉誠出版

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。  
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

FAX●03-5215-9025

〈詳細目次〉

序文……………藤本幸夫

●第一部——書物のかたち・書物のジャンル

- 佐々木孝浩……………〈古写本〉 日本の写真——装訂を中心として  
柏崎順子……………〈江戸版〉 初期出版界の様相  
木村八重子……………〈草双紙〉 「草双紙」の史的展望  
棚橋正博……………〈黄表紙〉 黄表紙  
佐藤至子……………〈合巻〉 合巻における自主規制  
——『三国太郎再来伝』から『現世扶桑太郎』へ  
鈴木圭一……………〈中本（人情本）〉 中本二編三冊意識  
石上阿希……………〈春画・艶本〉 「書籍目録」にみる枕絵と好色本  
大久保純一……………〈錦絵〉 錦絵とは  
湯浅淑子……………〈おもちゃ絵〉 江戸のおもちゃ絵  
鈴木俊幸……………〈草紙類〉 上方の草紙類をめぐる  
万波寿子……………〈仏書〉 日本のお仏書  
鈴木達彦……………〈医書〉 日本漢方の特質と日本医書

●第二部——印刷・活字・技術

- 住吉朋彦……………〈宋版・元版〉 宋元版研究の道程  
堀川貴司……………〈五山版〉 五山版をどう考えるか  
長澤孝三……………〈和刻本〉 「和刻本」について  
豊島正之……………〈キリシタン版〉 キリシタン文獻  
林進……………〈古活字版〉 角倉素庵はなぜ出版事業を興したのか——近世初頭、草創期の古活字版  
高木浩明……………〈古活字版〉 古活字版から整版へ、整版から古活字版へ  
森上修……………〈古活字版〉 古活字版印刷と木活字駒の彫出技法  
小秋元段……………〈出版史料としての反古〉 東北大学附属図書館漱石文庫所蔵古活字版『太平記鈔・音義』表紙の復元的考察  
渡辺守邦……………〈出版史料としての反古〉 表紙裏反古・再考  
橋口侯之介……………〈彫りと摺り〉 彫師摺師から見た日本の出版形態  
永井一彰……………〈版木〉 板木の節

●第三部——本屋・商業出版・蔵書

- 鈴木俊幸……………〈日本近世の本屋〉 本屋と出版——江戸時代における書籍文化の特質  
塩村耕……………〈日本近世前期の商業出版〉 近世前期の出版界と西鶴  
長友千代治……………〈貸本屋〉 貸本屋の横顔  
岡村敬二……………〈蔵書・蒐書（日本）〉 蔵書家の索引、蔵版、蔵書の行方  
大沼晴暉……………〈蔵書・蒐書（日本）〉 田中さんのおもちゃ箱——小平市立図書館蔵本  
大沼晴暉……………〈日中韓の商業出版〉 日中韓坊刻本の比較研究或いは此等二か国書物の比較研究のために  
大木康……………〈中国の商業出版〉 中国書肆史考——近世を中心に  
大塚秀高……………〈中国の商業出版〉 坊刻本と物語——口頭の物語の出版について  
金文京……………〈中国の商業出版〉 明代建陽の商業出版と通俗小説  
上原究一……………〈中国の商業出版〉 明末清初の坊刻における江西の位置付けについて  
高橋智……………〈蔵書・蒐書（中国）〉 中国の蔵書家について  
藤本幸夫……………〈朝鮮の商業出版〉 朝鮮坊刻本攷  
李胤錫……………〈朝鮮の商業出版〉 朝鮮朝出版における坊刻本の性格と位置  
全相豆……………〈朝鮮の商業出版〉 坊刻本「春香伝」の発生とその変貌について

あとがき……………藤本幸夫  
執筆者覧……………

# 中国史書入門 現代語訳 北齊書

〔監修〕 氣賀澤保規 〔明治大学東アジア石刻文物研究所所長〕

池田恭哉 〔京都大学文学研究科准教授〕

岡部毅史 〔大阪市立大学学術情報課職員〕

〔訳者〕 梶山智史 〔明治大学・専修大学兼任講師〕

倉本尚徳 〔京都大学人文科学研究所准教授〕

田熊敬之 〔東京大学大学院人文社会科学系研究科博士課程〕

二十四史と呼ばれる中国歴代王朝史（正史）を、現代語訳で読む「中国史書入門」シリーズ。

異民族が中原に進出し、

群雄割拠した魏晋南北朝時代。

有名な蘭陵王・高長恭が活躍した

北齊の正史『北齊書』を現代語で読む。

## 本書の特色

◆原文と現代語訳が対照できる。

◆皇帝の本紀を全篇訳出。各列伝の抄訳。

◆『北齊書』や『東魏・北齊』を理解する

コラム、地図や事表、系図などの資料

を収録。

## 目次

はじめに

### 第一部 帝室の軌跡

#### 第一章 帝紀

神武帝（上）、文襄帝、文宣帝、廢帝、孝昭帝、武成帝、後主、幼主

#### 第二章 後宮伝

神武皇后、文襄元后、文宣李后、孝昭元后、武成胡后、後主斛律后、胡后、穆后

#### 第三章 諸王侯伝

高祖十一王、文襄六王

### 第二部 人臣の列伝

#### 第四章 群臣伝——東魏・北齊の勳貴たち

竇泰、尉景、婁昭（兄子婁叡）、庫狄干（子庫狄士文、韓軌、潘樂、段榮、子段韶、段孝言）、斛律金（子斛律光、斛律羨）、孫騰、高隆之、司馬子如、賀拔允、蔡儁、韓賢、尉長命、王懷、劉貴、任延敬、莫多婁賈文、高市貴、薛孤延、張瓊（子張忻、張遵業）、斛律光舉（子斛律孝卿、代人劉世清）、堯雄（弟堯賢、從父兄堯儉）、慕容紹宗、慕容儼

#### 第五章 群臣伝——神武帝・文襄帝・文宣帝の謀臣・武将たち

高乾（弟高慎、高昂、高季式）、封隆之（子封子繪、從子封孝琰、封孝瑛）、李元忠（子李孫、族弟李密、宗人李暉、族叔李景遷、盧文偉（子盧恭道、孫盧詢祖、族人盧勇）、李義深（子李駒、族弟李正遷）、魏蘭根、崔俊（子崔瞻、族叔崔景鳳、族子崔肇師）、孫塞、陳元康（子陳善藏、弟陳懋）、杜弼

#### 第六章 群臣伝——東魏・北齊の文武百官たち

敬顯儒、破六韓常、元孝友、李渾（子李湛、族子李公趙）、崔暹、高德政、崔昂、王昕（弟王暉）、陸法和、王琳、徐之才（子徐林、徐同卿、徐之範）、楊愔、燕子獻、宋欽道、鄭顛、裴讓之（弟裴讓之、裴讓之）、邢即、魏收、辛術、元文遙、趙彥深、崔季舒、祖珽、尉瑾、唐邕、白建、暴顯、皮景和、暴連猛、元景安、獨孤永業、陽斐、盧潛、崔劼、盧叔武、陽休之、袁聿修、李稚廉、封述、源彪

#### 第七章 學術伝

儒林伝序、顔之推

#### 第八章 外戚伝・方伎伝・恩倖伝

外戚序、婁叡、胡長仁（從祖兄胡長養）、方伎序、由吾道宗、信都芳、宋景業、許遵、吳遵世、趙輔和、皇甫玉、解法選、魏寧、秦母懷文、張子信、馬嗣明、恩倖序、郭秀、和士開、穆提婆、高阿那肱、韓鳳、韓寶業、盧勒又、齊紹

#### コラム

『北齊書』編纂 ●「鄴城・晉陽」兩都制 ●北齊蘭陵王 ●文林館、「修文殿御覽」

侯景の乱 ●北齊仏教 ●西域胡人 ●北齊・北周の關係

資料編（北齊版圖、事表、系図ほか）

おわりに

本体六、〇〇〇円（+税）

A5判並製カバー装・約六五〇頁

二〇二一年夏刊行

ISBN978-4-585-29612-6 C0398

書名	部数
中国史書入門 現代語訳 北齊書	部
氣賀澤保規〔監修〕 池田恭哉・岡部毅史・梶山智史・倉本尚徳・田熊敬之〔訳〕	本体6,000円(+税) A5判並製カバー装・約650頁 2021年夏刊行 ISBN978-4-585-29612-6 C0398
ご送付先ご住所（通信欄）	

日本古文書学会 〈編〉

# 古文書への招待

## 過去の人びとのいとなみを読み取る

長屋王家符、北条政子書状、足利義教自筆御内書、豊臣秀吉朱印状、薩長同盟覚書裏書……

過去の人びとが書き残した「古文書」にはいったい何が書かれているのか？

古代から近代にわたる全四十五点の古文書を丹念に読み解くことで、古文書のもつ意味、それを記述した人びとの個性、書かれた背景をなす歴史的事件を明らかにする。

また、文章の内容のみならず、文字の書かれ方、料紙、大きさなど、「モノ」としての古文書にも焦点を当て、その魅力に迫る。

カラー図版をふんだんに配し、

全点に翻刻・現代語訳・詳細な解説を付した

恰好の古文書入門！

### 収録

#### ①かたち

- 長屋王家符
- 他田奉部直神護解
- 太政官符
- 源頼朝寄進状
- 伊賀国黒田莊悪党人縁者交名
- 武雄社大宮司都々丸代藤原通厚軍忠状
- 足利義満書状案
- 足利義教自筆御内書
- 東寺款状
- 羽柴秀吉制札
- 徳川家康起請文
- 豊臣秀吉朱印状
- 開帳差免帳
- 交代寄合山名義蕃書置

#### ②ひと

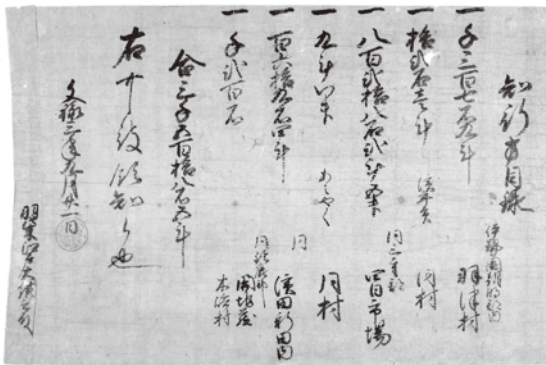
- 太政官符享
- 源実朝袖判下文
- 右馬允康経書状
- 某書状案断簡
- 護良親王令旨
- 大藏大輔某奉書
- 足利尊氏御判御教書
- 征西將軍宮令旨
- 今川了俊書下
- 栖雲斎威阿書状
- 白川義親書状
- 丹羽長秀書状
- 毛利輝元起請文案
- 黒田如水(孝高)書状
- 五箇条の御誓文
- 北条政子書状
- 東大寺大勧進重源自筆書状
- 高麗渤海関係某書状
- 藤原為家讓状
- 足利尊氏御判御教書
- 沙弥惠尊(小田孝朝)書状
- 足利義維御内書
- 武田信玄自筆願文
- 織田信長印判状
- 豊臣秀吉知行方目錄
- 三井八郎右衛門宛寺井庄右衛門起請文
- 薩長同盟覚書裏書(坂本龍馬筆)

本体二、〇〇〇円(+税)

B5判並製カバー装・二七六頁(フルカラー)

二〇二一年一月刊行

ISBN978-4-585-22277-4 C1021



豊臣秀吉知行方目錄

關地蔵院所藏

[画像提供・亀山市歴史博物館]

書名	部数
古文書への招待	
日本古文書学会 [編]	
本体3,000円(+税)	
B5判並製カバー装・176頁	
2021年1月刊行	
ISBN978-4-585-22277-4 C1021	部
ご送付先ご住所 (通信欄)	

増補改訂新版

# 日本中世史入門 論文を書こう

本体二、八〇〇円(+税)  
A5判並製カバー装  
六〇八頁・二〇二一年二月刊行  
ISBN978-4-585-22280-4 C0021

国士館大学文学部教授

秋山哲雄

国立歴史民俗博物館・  
総合研究大学院大学准教授

田中大喜

共愛学園前橋国際大学教授

野口華世

〈編〉

2014年刊行の  
日本中世史入門  
好評につき、  
大幅増補・改訂して  
絶賛発売中!  
240頁増!

## 歴史を学び、 考えるために

「歴史」はたんに過去の出来事をわれわれに伝えるのではなく、  
現代そして未来の人々の動向を規定する「力」を持っている。  
そこに学問として歴史を学ぶ意義が存在している。  
それでは、われわれはどのように歴史と対話すべきなのか――  
歴史学の基本である論文執筆のためのメソッドと観点を  
日本中世史研究の最新の知見とともにわかりやすく紹介、  
歴史を学び、考えることの醍醐味を伝授する。

卒論・修論の執筆、指導にも最適!

まえがき：秋山哲雄・田中大喜・野口華世

I 「歴史学」を学ぶということ

II 論文を書こう――歴史学研究の方法を学ぶ

III 日本中世史研究の現在

中世摂関家論●中世的権門としての摂関家：高松百香  
院政論●政治史と家族史の融合：佐伯智広  
平家政権論●平家政権論の軌跡とこれから：前田英之

中世前期国家財政論●税制・財政史から中世国家・社会の成立を考えるために：守田逸人

荘園史研究●中世天皇家の荘園の意味を考える：野口華世

中世武士論●中世武士のとりえ方はどう変わったか：伊藤瑠美

鎌倉幕府論●中世の特質を明らかにする：秋山哲雄

鎌倉幕府武士論●鎌倉幕府を支える様々な人々：赤澤春彦

鎌倉期守護論●幕府による全国統治の実態に迫る：西田友広

中世前期法制史研究●鎌倉幕府の法と裁判へのまなざし：木下竜馬

鎌倉幕府御家人制論●鎌倉幕府御家人制が中世後期に遺したものは：清水 亮

中世武士団論●中世の武士と社会の特質を考える：田中大喜

朝廷下級官人論●朝廷を支える官僚システム：遠藤珠紀

室町殿論●新たな権力者像の発見：大田壮一郎

室町期守護論●室町期守護論の「これまで」と「これから」：大藪 海

中世後期法制史研究●室町幕府法からみた中世後期の「法」の特質：松園潤朗

中世寺院史●中世寺院と顕密体制を考える：石田浩子

中世村落・環境史●生活の舞台としての村落をどうとらえるか：高木徳郎

中世交通・流通論●水陸のみちを考える：藤本頼人

中世都市論●都市の輪郭について考える：三枝暁子

中世身分論●身分と集団から中世社会を考える：辻 浩和

中世東国史研究●地域史と国家史のあいだで：植田真平

中世日本・東アジア交流史●外国との関わりを考える：伊川健二

中世日本境界領域論●東アジア交流の玄関口としての境界領域：荒木和憲

古文書学を学ぶ人のために●史料論の時代における古文書学の可能性：佐藤雄基

中世絵画史料論●絵画にかくされたもうひとつの日本文化：黒田 智

中世考古資料論●中世考古学の方法：村木二郎

執筆者一覧  
あとがき：増補改訂版の刊行に寄せて：秋山哲雄・田中大喜・野口華世  
研究概念・用語索引

書名	部数
増補改訂版 日本中世史入門——論文を書こう 秋山哲雄・田中大喜・野口華世〈編〉	本体3,800円(+税) A5判並製カバー装・608頁 2021年2月刊行 978-4-585-22280-4 C0021
ご送付先ご住所（通信欄）	



「Ⅱ 論文を書く」では、論文執筆から投稿までのプロセスをフローチャートでわかりやすく紹介。各段階で押さえておきたいポイントはQ&A方式で詳しく説明。

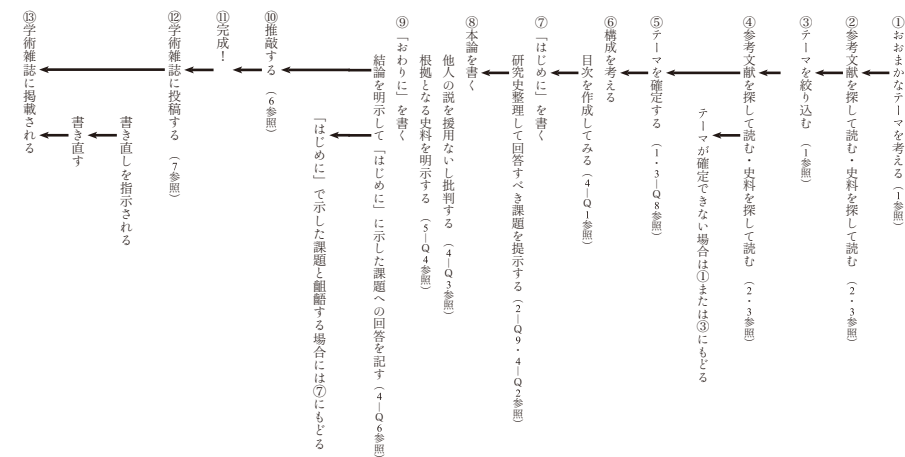
● 頁見本

● 頁見本

はじめに

論文を書くという作業は、これまで進めてきた研究を文章としてまとめて新見を学界に問い、学問の進展に寄与することである。それだけに論文は、すぐに書けるものではない。ねばりつ参考文献や史料と向き合ってテーマを絞り、どうすれば自分の主張を説得力のあるものにできるかを熟考して構成を考え、史料を深く読み込んで我田引水とならないよう本論を慎重に書き進め、読者に自分の意図が伝わるよう丁寧な文章を推敲し、全体に矛盾がないかを広い視野で見直し、ようやく書き上がるものがある。おまかなフローチャートを左に示したので、まずはこれを参照しながら、後につづく項を読み進めていっていただきたい。迷ってもそれぞれの項目を何度でも確認していただければ、必ずや納得できる論文書き上げることができるはずである。なお、論文を書く方法は幾通りもあるだろうし、人によっても異なる。ここで示すのは、その中の一般的な書き方のひとつであることを断っておく。

【論文の書き方フローチャート】



4 構成を考える

Q1 書く前にまずやることは？

1でテーマを決め、2・3でそのテーマに関する参考文献や史料を読んだら、ようやく論文を執筆できる段階となる。論文を書く前には、まず全体の目次を考えることをお勧めする。目次は、当然のことながら、書き進めていくうちに変わることもあるが、最初におおまかな目次（『流れ』）を考えておくと、論文の筋道が整理できて、わかりやすい論文を書くことができる。目次は、「はじめに」↓本論↓「おわりに」という構成をとることが多い。本論は、3章から4章の構成にする。書きやすいだろう。また、それぞれの章の中を、さらにいくつかの節にわけると、読む側・書く側の双方にとって、わかりやすい内容になる。たとえば、『例1』『例3』のような目次が考えられ、すでに読んだ参考文献や史料を、どの章や節で引用するかを考えながら目次をふくらませていけば、論文の形に近づいていくはずである。まずは目次をしっかりと考えよう。

【例1】 武士団結合の複合的展開と公武権力

- はじめに
- 第一章 族長的結合と地域的結合
- 第一節 鎌倉期武士団の一族結合
- 第二節 本領の形成と地域的結合
- 第三節 町場と地域的結合
- 第四節 小括
- 第二章 一族結合と惣領制
- 第一節 惣領制の形成と展開
- 第二節 惣領職の成立
- 第三節 家督と惣領
- 第四節 小括
- 第三章 南北朝・室町期の武士団と荘園制
- 第一節 南北朝内乱と領地の所領の形成
- 第二節 室町幕府の戦争Ⅱ荘園政策と武士団
- 第三節 室町期の荘園制と惣領制
- 第四節 小括
- おわりに

【例2】 鎌倉と鎌倉幕府

- はじめに
- 第一章 鎌倉と鎌倉幕府の「独立」過程
- 第一節 鎌倉幕府の成立と鎌倉
- 第二節 鎌倉と鎌倉幕府の「独立」
- 第三節 小括
- 第二章 鎌倉の求心力
- 第一節 裁許の求心力
- 第二節 経済の求心力
- 第三節 宗教の求心力
- 第四節 小括
- 第三章 鎌倉の多核化
- 第一節 将軍求心力の変化
- 第二節 鎌倉の「地子」と「地主」
- 第三節 鎌倉の「宿所」
- 第四節 小括
- おわりに

【例3】 中世前期公家社会の変容

- はじめに
- 第一章 女院領とその意義
- 第一節 女院領の成立
- 第二節 御願寺の継承とその意義
- 第三節 小括
- 第二章 鎌倉前期の知行者と後鳥羽院
- 第一節 鎌倉期の安楽門院による継承
- 第二節 後鳥羽院による知行者の改善
- 第三節 知行者改善の要因とその影響
- 第四節 承久の乱後の知行者の論理
- 第五節 小括
- 第三章 鎌倉後期の知行者の再編
- 第一節 安楽寿院の再編
- 第二節 魚山院による知行者の再編
- 第三節 知行者再編の意味
- 第四節 安楽寿院知行者のその後
- 第五節 知行者の家領形成
- 第六節 小括
- おわりに

Q2 「はじめに」で書くべきことは？

「はじめに」では、論文で扱うテーマに関する研究史の整理を行う。研究史整理を通して、現時点までに明らかにされてきたこと、そして現時点で課題として残されていることを、自分なりにまとめることになる。これによって、論文の課題を明示することができるのである。研究史整理は、論文を書くにあたってのもっとも重要な出発点であり、準備は入念に行わなければならない。準備の際に必要な参考文献、先行研究や史料の収集については、2・3を参照のこと。

1 テーマを決める

- Q1 レポートと論文の違いは？
- Q2 テーマを決める要素は？
- Q3 論文にふさわしくないテーマは？
- Q4 興味を持つていることが絞れないときは？
- Q5 主要な通史類、講座類は？
- Q6 最近の研究動向を知るには？
- Q7 テーマを決める方法は？

2 参考文献を読む

- Q1 参考文献とは？
- Q2 ふざわい書籍とは？
- Q3 書籍を探すには？
- Q4 研究論文とは？
- Q5 学術雑誌とは？
- Q6 研究論文を探すには？
- Q7 研究論文を入手するには？
- Q8 参考文献の読み方は？
- Q9 参考文献を読むときに気をつけることは？
- Q10 参考文献を活用するには？

3 史料を読む

- Q1 史料とは？
- Q2 古文書を探すには？
- Q3 古記録や編纂物を探すには？
- Q4 地域の史料を集めるには？
- Q5 史料を読む前にすることは？
- Q6 史料を読むには？
- Q7 史料を読むときに気をつけることは？
- Q8 参考文献と史料を読んだ後は？

4 構成を考える

- Q1 書く前にまずやることは？
- Q2 「はじめに」で書くべきことは？
- Q3 本論で目指すことは？
- Q4 本論で気をつけることは？
- Q5 史料などを適切に引用するには？
- Q6 「おわりに」で注意すべきことは？

5 注(註)をつける／史料を引用する

- Q1 なぜ注をつけるのか？
- Q2 どのようなときに注をつけるのか？
- Q3 先行研究を引用する場合の注のつけ方は？
- Q4 史料を引用する場合の注のつけ方は？
- Q5 史料を引用する際に注意すべきことは？
- Q6 一次史料と二次史料の違いは？

6 推敲する

- Q1 推敲するとは？
- Q2 文章を見直すときのポイントは？
- Q3 文章を見直すときのポイントは？
- Q4 誤解されない文章を書くには？

7 投稿しよう

- Q1 どうやって投稿するのか？
- Q2 投稿すれば必ず掲載されるのか？

7つの段階に対応した43のQ&A

小島道裕・田中大喜・荒木和憲〔編〕 国立歴史民俗博物館〔監修〕

# 古文書の様式と国際比較

東アジア古文書学構築のために――

いまを生きるわれわれに  
歴史の一場面を伝えてくれる史料、古文書。  
そこに記された内容のみならず、  
文字の配置や大きさ、料紙の選択、印の位置など、  
「モノ」として残るその形もまた、  
古文書の持つ様々な意味と機能を伝える貴重な情報源である。  
古代から近世にいたる日本の古文書の様式と機能の変遷を  
通史的・総合的に論じ、  
また、文書体系を共有するアジア諸国の古文書と比較。  
日本の古文書の特質を浮き彫りにし、  
東アジア古文書学の構築のための基盤を提供する画期的成果。

二〇一八年秋に国立歴史民俗博物館にて開催され、SNS等でも大きな話題となった企画展示「日本の中世文書——機能と形と国際比較」。その関連シンポジウムおよびフォーラムを一书にまとめた貴重な一冊。歴史ファン・古文書ファン待望の一冊。

掲載図版120点超!  
カラー口絵では、  
古文書の様式を  
分かりやすく図解。

## 〔目次〕

《カラー口絵》図解でわかる文書様式

はじめに……………小島道裕

第1部 日本の文書様式とその変遷

1 古代の文書と中世への展開

古代日本における「文書」の誕生……………小倉慈司  
「詔勅」における口頭伝達の役割……………仁藤敦史  
中世日本における書状の広がり  
——古代書状論「公文書化」論を中心にして……………佐藤雄基

2 中世文書の諸相

将軍の文書と武士団の文書……………田中大喜  
寺院文書の特徴  
——祭議文書の形成とその背景……………横内裕人

3 戦国大名の文書と近世への展望

戦国大名の文書と天下人の文書……………金子 拓  
——北条氏の「虎の印判」は東アジア標準か……………小島道裕

第2部 東アジアの古文書と日本の古文書

1 韓国の古文書をめぐって

朝鮮王朝の国王文書……………川西裕也  
朴 竣鎬(稲田奈津子訳)  
日本と韓国の署名花押比較……………朴 竣鎬(稲田奈津子訳)  
朝鮮時代における私人間の契約文書  
——様式と特徴を中心に……………文 叔子(稲田奈津子訳)  
東アジア古文書の中の画指……………三上喜孝

2 中国の古文書をめぐって

中国古文書学概論  
——公文書の様式研究を例に……………黄 正建(江川式部訳)  
明清時代の「信牌」……………阿 風黄 素英訳)  
日本古代における中国文書様式の受容と変容……………丸山裕美子

3 東アジアの文書と外交の文書

中世日本の往復外交文書  
——十五、十六世紀の現存例を中心として……………荒木和憲  
安南日越外交文書の様式と伝来……………藤田励夫  
イルハン朝(モンゴル支配期イラン)の公文書……………四日市康博

総括 文書実践としての中世文書史……………高橋一樹  
あとがき……………小島道裕  
執筆者・翻訳者一覧

本体 **7,800**円(+税)  
A5判上製カバー装  
カラー口絵16頁+本文416頁  
ISBN 978-4-585-22272-9 C3020  
2020年3月刊行

書名	部数
古文書の様式と国際比較	本体7,800円(+税)
小島道裕・田中大喜・荒木和憲〔編〕 国立歴史民俗博物館〔監修〕	A5判上製カバー装 カラー口絵16頁+本文416頁 ISBN978-4-585-22272-9 C3020 2020年3月刊行

ご送付先ご住所(通信欄)

# 渤海の古城と国際交流

清水信行・鈴木靖民<sup>[編]</sup>

本体14,000円(+税)

B5判上製カバー装・496頁

2021年2月刊行

ISBN978-4-585-22289-7・C3020

考古学・文献史学より「海東の盛国」の実態を  
明らかにする画期的論集

7世紀末から10世紀前半、中国東北部・ロシア沿海地方・朝鮮半島北部にまたがり展開した渤海国。唐や日本など周辺諸国との交易で栄え、当時の東アジア情勢において「海東の盛国」と称されるほどの古代国家であったが、資・史的制約により、長らくその具体的な様相を詳らかに把握することが困難であった。しかし、冷戦終結に伴い、旧渤海地域における考古学調査・研究が飛躍的に進み、渤海国の政治・行政制度、国際交流の諸相、文化受容の有り様などが明らかになってきた。30年に亘る考古学・文献史学の国際共同研究より得た知見から最新の研究成果を提示する画期的論集。

## 【目次】

序言●清水信行・鈴木靖民

第I部●渤海の統治制度と国際交流

第II部●クラスキノ古城の機能と性格

第III部●沿海地方渤海遺跡の出土遺物

あとがき●清水信行

執筆者一覧／索引(人名索引・地名索引・事項索引)

※詳細目次は裏面をご覧ください。

## 【執筆者一覧(掲載順)】

清水信行

鈴木靖民

金子修一

浜田久美子

赤羽目匡由

澤本光弘

宋基豪

田村晃一

小嶋芳孝

A.L.イヴリエフ

V.I.ボルディン

酒寄雅志

中澤寛将

E.I.ゲルマン

N.V.レシチェンコ

## [編者紹介]

### 清水信行(しみず・のぶゆき)

1949年生まれ。助東洋文庫研究員(非常勤)、青山学院大学文学部名誉教授。専門は日本考古学。

著書に『論集 沿海州渤海古城 クラスキノ古城の機能と性格』(編著、青山学院大学清水研究室、2013年)、『ロシア沿海地方古代・中世城跡の門構造と鍵・錠前』(編著、青山学院大学清水研究室、2017年)、論文に「韓国論山郡開泰寺出土銘文瓦についての一考察」(『日本考古学』五、日本考古学協会、1998年)、「渤海上京龍泉府出土の平瓦・丸瓦」(田村晃一編『東アジアの都城と渤海』東洋文庫論叢第64、助東洋文庫、2005年)などがある。

### 鈴木靖民(すずき・やすたみ)

1941年生まれ。横浜市歴史博物館館長、淑徳大学客員教授、國學院大学名誉教授。専門は日本古代史・東アジア古代史。

著書に『日本の古代国家形成と東アジア』(吉川弘文館、2011年)、『倭国史の展開と東アジア』(岩波書店、2012年)、『比較史学への旅—ガリア・ローマから古代日本へ』(勉誠出版、2012年)、『梁職貢図と東部ユーラシア世界』(編著、勉誠出版、2014年)、『日本古代の周縁史』(岩波書店、2014年)、『相模の古代史』(高志書院、2014年)、『古代日本の東アジア交流史』(勉誠出版、2016年)、『日本古代交流史入門』(編著、勉誠出版、2017年)、『古代の日本と東アジア 人とモノの交流史』(勉誠出版、2020年)などがある。

書名	部数
渤海の古城と国際交流 清水信行・鈴木靖民 <sup>[編]</sup>	部
本体14,000円(+税) B5判上製カバー装・496頁 2021年2月刊行 ISBN978-4-585-22289-7・C3020	
ご送付先ご住所(通信欄)	

## 【目次】

序言◎清水信行・鈴木靖民

### 第I部◎渤海の統治制度と国際交流

交易の視角からみた渤海国◎鈴木靖民

渤海をめぐる唐代の国際関係◎金子修一

渤海の外交文書——王啓を中心に◎浜田久美子

渤海の中央官制と地方制度◎赤羽目匡由

燕雲地域の漢人と滅亡以降の渤海人——〈陳万墓誌〉〈耶律宗福墓誌〉〈高爲裘墓誌〉など遼代石刻をてがかりに◎澤本光弘

六頂山古墳群の性格と渤海建国集団◎宋基豪(清水信行訳)

〔研究ノート〕渤海墓研究の検討——鄭永振の研究を中心に◎清水信行

渤海王陵・貴族墓論(その2)◎田村晃一

### 第II部◎クラスキノ古城の機能と性格

渤海時代のロシア沿海地方◎小嶋芳孝

考古学から見たクラスキノ古城の機能と性格◎田村晃一

クラスキノ古城の調査と沿海地方における渤海の考古学的研究◎A.L.イヴリエフ・V.I.ボルディン(清水信行訳)

沿海地方クラスキノ古城——歴史から見た特徴と機能◎A.L.イヴリエフ(垣内あと訳)

Nature and function of Kraskino walled town in Primorye region through the historical viewpoint◎A.L.Ivliev (translation by A.L.Ivliev)

渤海平地域とクラスキノ城跡——ポシエト湾周辺遺跡群の評価◎小嶋芳孝

クラスキノ古城と塩州◎酒寄雅志

〔コラム〕クラスキノ古城発掘調査30年とロ・日共同調査◎V.I.ボルディン(垣内あと訳)

Retrospective glance on 30 years of excavation of Kraskino ancient town and beginning of cooperation with Japanese archaeologists

◎V.Boldin (translation by A.L.Ivliev)

クラスキノ古城発掘調査記◎清水信行

### 第III部◎沿海地方渤海遺跡の出土遺物

クラスキノ城址出土土器の特質とその意義◎中澤寛将

クラスキノ古城の土器◎E.I.ゲルマン(垣内あと訳)

Pottery of Kraskinskoye walled town◎E.I.Gelman (translation by E.I.Gelman)

沿海州渤海遺跡出土瓦についての一考察◎清水信行

クラスキノ古城における特殊な遺構——瓦の側壁を持つ地下式竪穴状遺構

◎V.I.ボルディン・E.I.ゲルマン・N.V.レシチェンコ・A.L.イヴリエフ(清水信行訳)

渤海の金属製カンザシ◎小嶋芳孝

渤海・女真代城郭城門の研究◎E.I.ゲルマン(垣内あと訳)

あとがき◎清水信行

執筆者一覧

索引(人名・機関名索引／地名・史跡名索引／事項名索引(国家名・民族名含む))

# 古代の日本と 東アジア 人とモノの交流史

鈴木靖民 [著]

東アジアの構造はいかに形成され、  
展開したのか――

文献資料、最新の考古学的成果を博搜し、  
地政学的そしてヒト・モノ・文化の交流の視点より  
一世紀から十世紀におよぶ  
日本および東アジアの歴史的展開を  
浮き彫りにする。  
長年にわたり東アジア古代史研究を牽引する  
碩学による最新論集。

〔著者プロフィール〕

鈴木靖民 (すずき やすたみ)

横浜市歴史博物館館長、國學院大学名誉教授、淑徳大学人文学部客員教授。

文学博士。専門は日本古代史・東アジア古代史。

主著に『比較史学への旅―ガリア・ローマから古代日本へ』(勉誠出版、二〇二二年)、『梁  
職貢図と東部ユーラシア世界』(編著、勉誠出版、二〇一四年)、『日本古代の周縁史』(岩  
波書店、二〇一四年)、『相模の古代史』(高志書院、二〇一四年)、『古代日本の東アジア  
交流史』(勉誠出版、二〇一六年)、『日本古代交流史入門』(共編著、勉誠出版、二〇一七  
年)などがある。

〔目次〕

はじめに

## I 王権の始原・交易の力

- 1 加耶史の展開と倭
- 2 加耶の形成と対外交流――一〜三世紀
- 3 倭国の形成と加耶――四〜五世紀
- 4 加耶文化の北方的要素
- 5 弥生後期、根塚遺跡と東アジア

## II 中心化する周辺・あらがう周辺

- 1 広開土王碑にみえる「倭」
- 2 五世紀、高句麗の王陵・祭祀・王統譜  
――集安高句麗碑小考
- 3 五世紀の倭国と東アジア
- 4 反正天皇(珍)の人物像――記紀、宋書を通して

## III 外交の形・移動する文化

- 1 新羅の倭典と上表
- 2 半跏思惟仏像をめぐる倭と百濟・新羅――七世紀
- 3 古代日本の文化形成に寄与した朝鮮の人びと  
――七世紀を中心として
- 4 古代日本列島の遠距離交流と文化伝播

## IV 交流する国家・媒介する中国

- 1 日本古代国家のなりたちと東アジアの交流
- 2 『古事記』『日本書紀』にみえる女性像  
――古代国家と周縁
- 3 渤海国の首領と交易  
――史的特質をめぐって
- 4 シルクロード・東ユーラシア世界と古代日本

おわりに  
索引

本体 **10,000**円(+税)

A5 判上製カバー装・472頁  
ISBN 978-4-585-22279-8 C3020  
2020年7月刊行

書名	部数
古代の日本と東アジア 人とモノの交流史 鈴木靖民 [著]	部
本体10,000円(+税) A5判上製カバー装・472頁 ISBN978-4-585-22279-8 C3020 2020年7月刊行	部
ご送付先ご住所(通信欄)	

# 新羅中古期の史的的研究

武田幸男 [著]

本体 **12,000**円(+税)

A5 判上製カバー装・568 頁  
ISBN 978-4-585-22278-1 C3022  
2020 年 7 月刊行

古代東アジアにおける国際関係を考える上で、

朝鮮半島に展開した各国の動向は見逃すことのできない大きなテーマである。

ただし、残存史料が断片的であるなど困難も多く、その研究構築は容易ではない。

本書は、日本とも関連の深い、朝鮮半島の古代史で、主導的役割を担った新羅について、

とくに飛躍的な発展を見せた新羅中古期(五一四〜六五四年)を中心に考究。

近年、陸続と発見された各種の新羅碑文を、諸史料とともに精緻に読み込むことにより、

当時の激動する東アジアの国際関係における、新羅の史の実態とその展開過程を明らかにする。

金石文・文献史料双方に精通し、  
朝鮮古代史の先達として活躍する泰斗による待望の一書。

## 【著者プロフィール】

武田幸男(ただ・ゆきお)

東京大学名誉教授。専門は朝鮮前近代史。著書に『高麗史日本伝』上・下(岩波書店、二〇〇五年)、『広開土王碑との対話』(白帝社、二〇〇七年)、『広開土王碑墨本の研究』(吉川弘文館、二〇〇九年)などがある。

## 【目次】

序言

### 第一編 新羅官位制の研究

第一章 新羅・法興王代の律令と衣冠制

第二章 金石文資料からみた新羅官位制

第三章 新羅官位制の成立

第四章 新羅官位制の成立に関する覚書

### 第二編 新羅「教事碑」の研究

第一章 浦項・中城里碑の研究

第二章 迎日・冷水里碑の立碑年次と「王教」主体

第三章 蔚珍・鳳坪碑の「教事」主体と「刑罰執行」

第四章 真興王代における新羅の赤城経営

第五章 丹陽・赤城碑の「教事」主体と「教事」内容

### 第三編 蔚州書石の研究

第一章 顔のない人物像の彼方

第二章 「乙巳年原銘」と「己未年追銘」の研究

蔚州書石谷における新羅・葛文王一族

蔚州書石「癸巳六月廿二日銘」の研究

新羅・沙喙部集団の書石谷行

### 第四編 新羅支配体制の研究

第一章 新羅六部とその展開

第二章 新羅の法幢軍団とその展開

第三章 新羅の二人派遣官と外司正

新羅地方檢察官の系譜

第四章 私の新羅史探求の旅

新羅の国号・王号・王権とタロの系譜

あとがき

索引

書名	部数
新羅中古期の史的的研究 武田幸男 [著]	部
本体 12,000円(+税) A5判上製カバー装・568頁 ISBN978-4-585-22278-1 C3022 2020年7月刊行	
ご送付先ご住所(通信欄)	

工藤 隆・岡部隆志・遠藤耕太郎(編)

だいじようさい

# 大嘗祭

## 隠された古層

「一三〇〇年の伝統」をどう捉えるか――

毎年一月にある五穀豊穡や国家安寧を祈る「新嘗祭」の中でも、天皇即位後初めて行う儀式である大嘗祭。

令和の天皇即位に伴う皇室行事「大嘗祭」の中心的儀式「大嘗宮の儀」は、

二〇一九年一月一四〜一五日未明にかけて行われた。

アニミズム的原理をおおもととする大嘗祭を、どのように今の時代の価値観の中に位置づけたらよいか。

民主主義、国民主権という現在の価値観の中で、国民が自ら納得できる説明、論理は形成できるのか。

大嘗祭の本質の側から、今とこれからの時代の大嘗祭、ひいては天皇制のあり方を考えるための視座を与える一冊。

### 「編者プロフィール」

工藤 隆(くどう たかし) 大東文化大学名誉教授。

主な著書に『大嘗祭の始原』(三書房、一九九〇年)、『雲南省へー民族歌垣と日本古代文学』(勉誠出版、二〇〇六年)、『古事記の起源』(中公新書、同)、『大嘗祭』(同、二〇一七年)ほか多数。

岡部隆志(おかべ たかし) 共立女子短期大学名誉教授。

専門は日本古代文学、近現代文学、民俗学。主な著書に『古代文学の表象と論理』(武威野書院、二〇〇三年)、『短歌の可能性』(ながらみ書房、二〇一五年)、『アジア歌垣論 附中国雲南省白族の歌掛け資料』(三弥井書店、二〇一八年)などがある。

遠藤耕太郎(えんどう こうたろう) 共立女子大学文学部教授。

専門は日本古代文学、中国少数民族文化。主な著書に『モノ人母系社会の歌世界調査記録』(大修館書店、二〇〇三年)、『古代の歌―アジアの歌文化と日本古代文学』(瑞木書房、二〇〇九年)、『万葉集の起源―東アジアに息づく抒情の系譜』(中公新書、二〇二〇年)などがある。

### 「目次」

『大嘗祭 隠された古層』刊行の意義 ● 遠藤耕太郎

大嘗祭と天皇制 ● 工藤 隆

大日本帝国憲法・旧皇室典範と天皇制／日本国憲法・新皇室典範と天皇制／大嘗祭の源流／天皇の問題／天武持統政権―日本の統治機構のスタート／大宝律令に見る天皇祭祀の本質／大嘗祭における祭神／皇祖アマテラス祭神説が抱える問題／大嘗祭の特徴をまとめると／大嘗の祭(祝詞)に見る大嘗祭の構造／天皇の曖昧さと秘儀の役割

秘儀としての大嘗祭―曖昧なる天皇の超越性 ● 岡部隆志

天皇の超越性／大嘗祭の二つのとらえ方／天皇が帯びる霊威の解釈／曖昧さこそが大嘗祭の本質／大嘗祭における祭神／皇祖アマテラス祭神説が抱える問題／大嘗祭の特徴をまとめると／大嘗の祭(祝詞)に見る大嘗祭の構造／天皇の曖昧さと秘儀の役割

シンポジウム討議 大嘗祭 隠された古層

パネリスト ● 工藤隆・岡部隆志 司会 ● 遠藤耕太郎

大嘗祭の古層／天武持統朝と大嘗祭／大嘗祭と情念／大嘗祭と女性性・天皇制／曖昧な大嘗祭と日本／祀る神と祀られる神／ツカサの就任儀礼と大嘗祭／東アジアの新嘗儀礼

大嘗祭を取材して ● 高島博之

はじめに／退位の意向／大嘗祭の位置づけ／秋篠宮さまの反発／大嘗祭とは何か／実際の大嘗祭

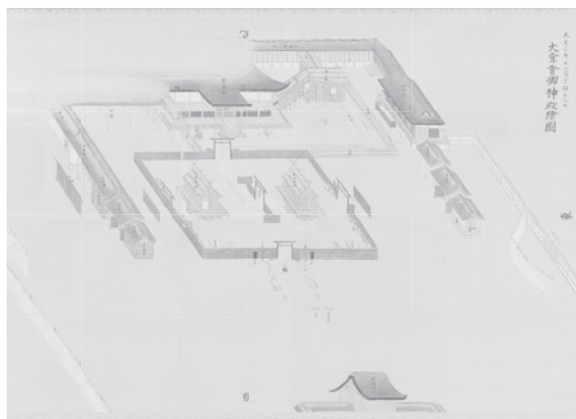
● 座談会 大嘗祭の今とこれから

● 工藤 隆・岡部隆志・山田直巳・高島博之 司会 ● 遠藤耕太郎  
大嘗祭の捉え方／折口信夫の大嘗祭論／秋篠宮発言をめぐって／世界文化遺産としての大嘗祭／天皇が継承するもの／天皇の根拠／皇位継承のこれから／天皇制のこれから

● 付録資料 マレー半島セランゴール地方の収穫儀礼

● WW・スキート(翻訳 遠藤見和)  
稲魂の回収儀式の準備／田で母穂束から稲魂を取る儀式／稲魂を再生させる儀式／三日後の脱穀と乾燥／母穂束に関する儀式／新嘗の祝宴／最後の稲穂の収穫

あとがき ● 岡部隆志



大嘗会御神殿絵図 (國學院大學図書館蔵)

本体 3,800 円(+税)  
四六判並製カバー装・296頁  
ISBN978-4-585-21057-3 C1014  
2021年2月刊行

書名	部数
<p>大嘗祭―隠された古層</p> <p>工藤 隆・岡部隆志・遠藤耕太郎(編)</p>	<p>本体 3,800 円(+税)</p> <p>四六判並製カバー装・296頁</p> <p>2021年2月刊行</p> <p>ISBN978-4-585-21057-3 C1014</p>
ご送付先ご住所(通信欄)	部

# 中世の 博多とアジア

伊藤幸司〔著〕

## 中世日本における 国際交流の最前線

中世日本においてアジアへの窓口であり、アジアにおける日本への窓口でもあった博多。

アジアの海商が来航する博多での貿易活動は、民間取引や国家外交など、

多様で広範な国際交流のなかで展開されていた。

また、博多で展開する宗教勢力は、こうした国際交流と密接不可分の状況で展開し、その影響はネットワークを通じて広く列島の各所にも及んでいた。

中世の博多をもつとも特徴付ける要素である「貿易」と「宗教」という視角から俯瞰的に考察し、中世日本最大の国際貿易港であり、東アジア海域有数の港湾都市であった博多の実像に迫る。

国際交流史、都市史、流通史、宗教史を架橋する新知見を提示する画期的な一書。

### 【著者紹介】

伊藤幸司（いとうこうじ）

九州大学大学院比較社会文化研究院教授。

専門は日本中世史・東アジア交流史。

著書に『中世日本の外交と禅宗』吉川弘文館、二〇〇二年、『日明関係史研究入門』兵編著、勉誠出版、二〇一五年、『室町戦国日本の覇者大内氏の世界をさぐる』責任編集、大内氏歴史文化研究会編、勉誠出版、二〇一九年）などがある。

### 【目次】

カラー口絵

凡例

序章 中世博多研究の潮流

### 第一部◎貿易都市博多

第一章 港町複合体としての中世博多湾

第二章 中世博多の海商と海の道——南島路をめぐる

第三章 日朝関係における偽使の時代——博多商人の視点から

第四章 中世後期の博多とアジア

### 第二部◎宗教都市博多

第五章 宗教都市博多の中世——寺社を中心として

第六章 博多と鎌倉——鎌倉時代の日本禅宗界

第七章 首羅山・油山と東アジア

第八章 中世の崇福寺をめぐる

第九章 博多聖福寺と臨済宗幻住派

### 第三部◎博多の史料研究

第一〇章 聖福寺古図と承天寺古図——描かれた戦国時代の博多

第一一章 湖心碩鼎『願賢録』について

終章 アジアのなかの港市博多

### 史料編◎湖心碩鼎『願賢録』

凡例

『願賢録』乾

『願賢録』坤

初出一覧

研究費使用一覧

あとがき

掲載図表一覧

参考文献一覧

索引



部数

本体9,500円(+税)

A5判・上製カバー装  
カラー口絵4頁+本文560頁  
2021年2月刊行  
ISBN978-4-585-22300-9 C3020

部

# 中世の博多とアジア

伊藤幸司〔著〕

ご送付先ご住所（通信欄）



# 近世大名墓の考古学

東アジア文化圏における思想と祭祀

松原典明 [編]

為政者の思考・観念を「墓」に探る  
列島各地に残された近世大名家の墓所は、幕藩体制の社会構造、地域の政治・経済・文化・信仰についての歴史的背景を解明するための極めて重要な歴史資料である。そして、その墓所造営や葬送儀礼、祖先祭祀には、東アジア文化圏に共通項として存在した儒教受容や礼学の実態が顕現している。

近年、調査・研究の進む大名家墓所を、考古学そして文献学の知見より多角的に検討し、近世武家社会における為政者の思想とその実践の諸相を明らかにする。

図版掲載点数約400点!

編者プロフィール

松原典明 (まつばらのりあき)

一九六〇年生まれ。石造文化財調査研究所代表。専門は近世考古学、墓制史。著書に『近世宗教考古学の研究』(雄山閣、二〇〇九年)、『近世大名葬制の考古学的研究』(雄山閣、二〇一一年)、『近世大名墓の世界』(共著、雄山閣、二〇一三年)、論文に『近世武家社会における葬制について』(藤堂高久の葬送と喪禮)、『日本仏教総合研究』10号、二〇一一年)、『近世大名家墓所からみたアイデンティティの形成』(大江姓永井家墓所形成を例として)、『日本考古学』41、二〇一六年)、『近世大名墓から読み解く祖先祭祀』、『宗教と儀礼の東アジア』(交錯する儒教・仏教・道教)アジア遊学二〇六号、二〇一七年)などがある。

本体 12,000円(+税)

B5判・上製カバー装・336頁  
ISBN978-4-585-22276-7 C3021  
2020年6月刊行

## 目次

はじめに◎松原典明  
総論 近世大名家墓所調査の意義◎坂詰秀一

### Ⅰ 近世大名葬制の思维と実践

会津藩の思想と儒教・神道の実践◎近藤真佐夫  
彦根藩井伊家の墓所造営と変遷——清涼寺墓所の再検討◎下高大輔  
岡山藩の儒教受容とその本末——儒教の墓を中心にして◎北脇義友  
日出藩木下家の宗教思想と祭祀  
——神道・儒教受容の足跡と先祖祭祀の諸相◎中尾征司  
岡藩中川家の思想と実践——儒教受容とその展開◎豊田徹士  
近世後期の豊後日田における葬礼の実践について  
——廣瀬淡窓・咸宜園とその周辺◎吉田博嗣  
薩摩藩島津家の墓所造営と宗教◎藤井大祐  
近世大名墓墓誌の存否について◎石田 肇

### Ⅱ 東アジア文化圏の思想受容と祭祀

黄檗文化の受容とその実践——歴住と帰依大名の墓から◎松原典明  
黄檗宗の展開と近世大名の帰依◎田中智誠  
近世大名家における積奠楽と礼楽の受容と変容  
——尾張藩徳川義直と姫路藩雅楽頭酒井忠道を事例として◎楊 桂香  
コラム◎大名庭園に写された西湖堤◎田中昭三  
長崎唐通事の墓制とその起源◎田中裕介  
沖繩における儒教の実践◎仁王浩司  
朝鮮王朝の碑の文化と社会◎篠原啓方  
執筆者一覧

書名	部数
近世大名墓の考古学 東アジア文化圏における思想と祭祀 松原典明 [編]	部
本体 12,000円(+税) B5判・上製カバー装・336頁 2020年6月刊行 ISBN978-4-585-22276-7 C3021	
ご送付先ご住所 (通信欄)	

【オンデマンド  
新版】

菅 豊・北條勝貴 [編]

# パブリック・ヒストリー 入門 開かれた歴史学への挑戦

本体四、八〇〇円(+税)

A5判並製

カラー八頁+本文五〇四頁

二〇二一年三月刊行

ISBN978-4-585-82254-7 C1021

「歴史」は、誰のものか――

人びとが語り、紡いできた歴史、そして、人びとが歴史とともに、歴史を糧に生きていくという行為に目を向け、学問と社会の対話を目指す「パブリック・ヒストリー」は、いま世界的な広がりを見せている学問分野である。歴史学や社会学、文化人類学のみならず、文化財レスキューや映画製作等、さまざまな歴史実践の現場より、歴史を考え、歴史を生きる営みを紹介。人間と歴史との関わりを考え、日常に活かしていくための知識と方法を伝える貴重な一冊。パブリックヒストリーを考えるための日本初の概説書！

【編者紹介】

菅 豊（すが ゆたか） 一九六三年生まれ。東京大学大学院情報学環・学際情報学府、東洋文化研究所教授。専門は民俗学。著書に『川は誰のものか――人と環境の民俗学』（吉川弘文館、二〇〇六年）、「人と動物の日本史3――動物と現代社会」（編著、吉川弘文館、二〇〇九年）、「新しい野の学問」の時代へ――知識生産と社会実践をつなぐために（岩波書店、二〇一三年）などがある。

北條勝貴（ほっしじょう かつたか） 一九七〇年生まれ。上智大学文学部教授。専門は東アジア環境文化史。著書に『環境と心性の文化史』上下（共編著、勉誠出版、二〇〇三年）、『寺院縁起の古層――注釈と研究』（共編著、法蔵館、二〇一五年）、「歴史を学ぶ人々のために――現在をどう生きるか」（共著、岩波書店、二〇一七年）などがある。

【目次】

I 理論 Theories

II 実践 Practices

歴史家とは誰か？

Who is the Historian?

協働

Collaboration

オーラル・ヒストリーとライティング・ヒストリー

Oral History and Writing History

ミュージアムとアーカイブズ

Museums and Archives

デジタル・パブリック・ヒストリー

Digital Public History

アートと歴史映写

Art and Historiophony

【執筆者一覧】

菅豊●北條勝貴●中澤克昭●俵木悟

●西村明●市川秀之●及川祥平

●宮内泰介●加藤幸治●加藤圭木

●金子祥之●石井弓●金菱清●川田牧人

●西村慎太郎●小山亮●村上忠喜

●後藤真●渡邊英徳●塚原伸治

●飯田高善●青原さとし●今井友樹

書名	部数
パブリック・ヒストリー入門 開かれた歴史学への挑戦 菅豊・北條勝貴 [編]	本体4,800円(+税) A5判並製・カラー8頁+本文504頁 2021年3月刊行 ISBN978-4-585-82254-7 C1021
ご送付先ご住所（通信欄）	

勉誠出版

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。  
千代田区神田神保町3-10-2 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

FAX●03-5215-9025

# パブリック・ヒストリー入門

## 開かれた歴史学への挑戦

◆おへん

口絵

菅 豊 ●序文 パブリック・ヒストリー——現代社会において歴史学が向かうひとつの方向性

### I 理論 Theories

菅 豊 ●パブリック・ヒストリーとはなにか？

北條勝貴 ●〈ありのままの事実〉を支えるもの——近代日本における歴史実践の多様性  
中澤克昭 ●プラクティカル・パストと日本史——中世歴史実践史ノート

### II 実践 Practices

#### 《歴史家とは誰か？ Who is the Historian?》

俵木 悟 ●歴史と芸——神楽の過去を発掘する／演じるという歴史実践

西村 明 ●いまに生きる、いまに生かす歴史的空間における歴史実践  
——「Oターン郷土誌家」を目指して

市川秀之 ●滋賀県下の字誌にみる歴史実践

及川祥平 ●〈コラム〉「武田家属将美名録」はなぜ配られたのか——ある末裔の歴史実践

#### 《協働 Collaboration》

宮内泰介 ●「八重子の日記」をめぐる歴史実践

加藤幸治 ●更地と工事現場からの文化創造と歴史実践  
——津波被災地における復興キュレーション

加藤圭木 ●朝鮮・日本の歴史認識と市民的協働  
——「韓国併合」100年をめぐる日韓の運動から

金子祥之 ●〈コラム〉「歴史」を回す——オビシャ行事とオニッキをめぐる歴史実践

#### 《オーラル・ヒストリーとライティング・ヒストリー Oral History and Writing History》

石井 弓 ●戦争記憶をめぐる再帰的な歴史実践  
——オーラル・ヒストリーによる他者理解と自己理解

金菱 清 ●オーラル・ヒストリーの敗北宣言——想像の死者へ向けた手紙

川田牧人 ●〈コラム〉「歴史」する聖地創出

#### 《ミュージアムとアーカイブズ Museums and Archives》

西村慎太郎 ●歴史資料の保全と地域貢献

小山 亮 ●東京大空襲・戦災資料センターを拠点とした  
「東方社コレクション」をめぐる活動——共同研究の進展と成果の公開

村上忠喜 ●〈コラム〉民俗文化財に対する内部者の目線と外部者の目線

#### 《デジタル・パブリック・ヒストリー Digital Public History》

後藤 真 ●歴史のデータは誰のものか——Digital Historyがもたらす未来とは

渡邊英徳 ●「記憶の解凍」  
——資料の「フロッグ」化とコミュニケーションの創発による記憶の継承

塚原伸治 ●〈コラム〉歴史を刻む音楽——ある祭り囃子の「成長」

#### 《アートと歴史映画 Art and Historiophoty》

飯田高善 ●歴史・アーカイブズ・アートの連環  
——青森PARTH(2012 超群島)／  
〈2013 すばらしい新世界——再魔術化するユートピア〉

青原さとし ●映像という歴史叙述

今井友樹 ●〈コラム〉映像で文化を切り取る歴史実践の可能性と課題  
——姫田忠義の映像製作

北條勝貴 ●パブリック・ヒストリアンへの道程——あとがきにかえて

新装版

# 唐物と東アジア

からもの

— 舶載品をめぐる文化交流史 —

## 固定的な東アジア観を超越する

唐物とよばれる舶載品は、奈良から平安、そして中世や近世まで、どのように受容され、日本文化史に息づいているのだろうか。唐物交易の時代的変遷とその実態からみた異国との交流史、唐物を結節点とする漢と和の関係性への分析、人物とその権力の表象としての唐物の関係性について、美術品や歴史資料のみならず、文学資料も用いて明らかにする。

好評につき

# 重版

もくじ

- 序にかえて：河添房江
- 「唐物」研究と「東アジア」的視点——日本古代・中世史研究を中心として：皆川雅樹
- 日本美術としての「唐物」：島尾新
- コラム——唐物と日本の古代中世：五味文彦
- 奈良時代と「唐物」：森公章
- 上代の舶載品をめぐる文化史：河添房江
- 「万葉集」と古代の遊戯——双六・打毬・かりうち：垣見修司
- 平安時代と唐物：シャルロット・フォン・ヴェアシア
- 算賀・法会の中の茶文化と「源氏物語」——書かれざる唐物：末沢明子
- コラム——唐物としての書物：小島毅
- 唐物としての黄山谷：前田雅之
- 中世唐物再考——記録された唐物：古川元也
- 戦国織豊期の唐物——唐物から名物へ：竹本千鶴
- コラム——唐物と虚栄心の話をしよう！：上野誠
- 江戸時代の唐物と日蘭貿易：石田千尋
- 琉球使節の唐旅と文化交流：真栄平房昭

新装版 あとがき：皆川雅樹  
執筆者一覧

※本書は「唐物と東アジア」(アジア遊学147号)の  
品切にともない、新装刊行した書籍になります。



青磁香炉  
中国・元時代 | 称名寺蔵

本体 2,000円(+税)

A5判並製カバー装・208頁

2021年4月刊行

ISBN978-4-585-22140-1 C1021

## 河添房江・皆川雅樹 [編]

「かわぞえ・ふさぎ」二九五三年生まれ。東京学芸大学教育学部教授。平安文学を専攻。古典文学と東アジア関係を研究。主著に『源氏物語時空論』(東京大学出版会)、『唐物の文化史』(岩波新書)など多数。「みながわ・まさき」一九七八年生まれ。専修大学附属高等学校教諭。専門は日本古代史。古代東アジアの交流史と政治・文化史との連関などを研究。主著に『日本古代王権と唐物交易』(吉川弘文館)など。

書名	部数
新装版 唐物と東アジア — 舶載品をめぐる文化交流史 河添房江・皆川雅樹 [編]	部
本体2,000円(+税) A5判並製カバー装・208頁 2021年4月刊行 ISBN978-4-585-22140-1 C1021	
ご送付先ご住所 (通信欄)	

# 観相の文化史

相田 満 [著]



人相占いに代表される「観相」の知識体系が、文学・絵画等の表現活動にどのような影響を及ぼしてきたか

古典的相書の記述と関連資料の分析により、「忘れられた日本の学問」の具体相の把握、継承性と応用の可能性を追究することを試みる。

著者プロフィール

相田 満 (あいだみつる)

国文学研究資料館および総合研究大学院大学准教授。文学博士。論著等に『元号の歴史大事典・大化から令和由来と改元の原因』(監修、くもん出版、二〇一九)『時空間とオントロジで見る和漢古典学』(勉誠出版、二〇一六)『古典化するキャラクター』(アジア遊学130、勉誠出版、二〇一〇)、『和漢古典学のオントロジ』(勉誠出版、二〇一七)など。

## 目次

序 章 ● 本書の概要

第 I 章 ● 利休の顔——観相的分析の試み

第 II 章 ● 俗相の利休 利休の顔 二  
『秀雅百人一首』に収載される異形の利休像の観相的分析

第 III 章 ● 曲亭馬琴『南総里見八犬伝』の石龍子『神相全編正義』受容  
——観相的分析の試み

第 IV 章 ● 騎馬武者像再考  
——足利尊氏像主説を西川祐信『絵本武者備考』と  
観相の視点から考える

第 V 章 ● 聖徳太子の観相——観相的分析の試み(渡辺信和氏と共著)

第 VI 章 ● 相書に見る声で定命を知る平安時代の観相譚  
——『今昔物語集』巻六第四八の延命譚を  
敦煌文書と比較して分析する

第 VII 章 ● 異相をめぐる言説の系譜——重瞳を中心に

第 VIII 章 ● 総論的序章 まとめと補足

本体九、〇〇〇円(十税)

A5判・上製カバー装

二八〇頁+カラー口絵八頁

二〇二一年二月刊行

ISBN978-4-585-29203-6 C3095

書名	部数
<b>観相の文化史</b> 相田満 [著]	
ご送付先ご住所 (通信欄)	

本体 9,000円(+税)  
A5判・上製カバー装  
280頁+カラー口絵8頁  
2021年2月刊行  
ISBN978-4-585-29203-6 C3095

二松學舎大学文学部中国文学科[編]

改訂新版

# 中国学入門

## 中国古典を学ぶための13章

本体 一,600円(+税)

A5判並製カバー装・二三二頁

二〇一七年四月刊行

ISBN978-4-585-20056-7 C1000

※本書は二松學舎大学文学部中国文学科編『中国学入門』(2015年)の改訂新版です。

### 「もくじ」

- 古文学学◎戸内俊介
- 中国 古代文字論——二十一世紀の古文学学
- 古代歴史書◎小方伴子
- 物語伝承と歴史書——晋文公の放浪譚と史書『国語』
- コラム◎小方伴子
- 日本における『国語』の受容と訓点本
- 古代思想◎野間文史
- 経書略説——五経を中心にして
- 中国文学論◎牧角悦子
- 中国文学という方法
- 兩漢・六朝から唐代までの文学意識と詩文
- コラム◎牧角悦子
- 夏目漱石と漢詩
- 宋明思想◎田中正樹
- 宋代士大夫の思想とその展開——宋学と明学
- 古典小説◎伊藤晋太郎
- 「三国志」を文学する——「三国志」から「三国志演義」へ
- コラム◎伊藤晋太郎
- 神になった「三国志」の英雄
- 二十世紀文学◎武永尚子
- 文豪老舎——その生涯と作品
- 中国語学・中国語教育◎張佩茹
- 現代中国語文法研究と中国語教育
- 中国書道◎高澤浩一
- 偉人・王羲之と陶淵明を書く!
- 日本書道◎福島一浩
- 日本書道史が蓄えた書美
- 中国書法の摂取と創造の熱意
- 日本漢学◎町泉寿郎
- 日本漢学略史
- 日本における中国学術文化の学び
- 書誌学◎高山節也
- 漢籍書誌学のすすめ——古本整理案内記
- 古代文学◎冢井眞
- 銘文から『詩経』へ
- お役立ちサイト集/執筆者一覧



中国の文学・歴史・思想・芸術などの文化を研究する「中国学」。歴史をひもとけば分かるように、私たちの精神や思想の背景には、広く中国や朝鮮半島など東アジアからの影響がある。中国学を学ぶことは、自分自身を知ることにつながるだろう。古代から二〇世紀にいたる中国文化の展開や日本における影響を概観し、その豊穡な世界を分かりやすく紹介する。

中国古典を学ぶために必携の一冊!

書名	部数
改訂新版中国学入門【オンデマンド版】 中国古典を学ぶための13章 二松學舎大学文学部中国文学科[編]	部
ご送付先ご住所（通信欄）	

# 和漢朗詠集とその享受 増訂版

三木雅博〈著〉

本体 一五、〇〇〇円(+税)  
A5判上製カバー装・四八〇頁  
二〇二〇年十二月刊行  
ISBN978-4-585-29202-9 C3091

\*『和漢朗詠集とその享受』  
(勉誠出版、一九九五年)の  
増補改訂です。

## 【目次】

まえがき

序文 伊藤正義

増訂版の刊行にあたって

序 『和漢朗詠集』研究史の沿革と本書

### 第一篇…『和漢朗詠集』の構成

一 『和漢朗詠集』全般の構成

—『古今集』をはじめとする勅撰和歌集との関において—

二 『和漢朗詠集』上巻四季部の構成—先行詞華集との関連において—

三 『和漢朗詠集』下巻雑部の構成—先行詞華集との関連において—

四 『和漢朗詠集』八月十五夜・月部の構成—都の月・他郷の月—

五 『和漢朗詠集』の部立「白」に関する考察

—『朗詠集』の構成と周辺の資料から—

六 『和漢朗詠集』帝王・親王・丞相部の所収和歌をめぐって

—『古今集』序・同序古注(公任注)とのかかわりを視野において—

### 第二篇…『和漢朗詠集』の本文

一 『和漢朗詠集』の享受と諸写本の本文形態の相違

二 『和漢朗詠集』古写本における佳句本文の改変をめぐって

三 『和漢朗詠集』古写本における和歌本文の異同と部立の配列

—春部末の「藤」「躑躅」「款冬」の部立を中心に—

四 『和漢朗詠集』博士家写本の解説

—学的情報としての注記の「読み取り」—

### 第三篇…『和漢朗詠集』の享受と古注釈

一 院政期における和漢朗詠集注釈の展開

—『朗詠江注』から『和漢朗詠集私注』へ—

二 『和漢朗詠集私注』の方法

—『和漢朗詠集私注』の変貌—平安末期から

室町期にかけての『和漢朗詠集』写本の動向と関連して—

四 鎌倉前期における和漢朗詠集注釈の展開

—『和漢朗詠集私注』から『和漢朗詠集永清注』『和漢朗詠註抄』へ—

五 朗詠注における説話

### 附篇

一 『千載佳句』の部門の構成に関する考察

—冒頭の四時部を対象として—

二 『和漢朗詠集』所引唐人賦句雑考—出処と享受の問題を中心に—

索引(事項・書名・人名・題目・詩句・和歌)

日本にもたらされた中国の漢詩文、それを承けて平安朝の文人たちがつくりあげた日本の漢詩文、一方で万葉以来展開してきた和歌、これらが享受されていく歴史の交差点に成立したのが『和漢朗詠集』である。本書は『和漢朗詠集』の成立と享受を論じることにより、和の世界が有していた流れと漢の世界からもたらされた流れが交錯し、新しい流れが生み出されていく。我が国の文化の創造の過程で現れた、一つの典型的な現象を明らかにしていく。増補・改訂により待望の復刊。

### 【著者プロフィール】

三木雅博(みき・まさひろ)

一九五四年和歌山県生まれ。大阪市立大学大学院博士後期課程単位取得満期退学。梅花女子大学文化表現学部日本文化学科教授、博士(文学)。

専門は日中比較文学、平安朝文学。

著書に『平安詩歌の展開と中国文学』(和泉書院、一九九九年)、『平安朝漢文学鈎沈』(和泉書院、二〇一七年)、角川ソフィア文庫『和漢朗詠集現代語訳付き』(株式会社KADOKAWA、二〇一三年)など。

書名	和漢朗詠集とその享受 増訂版 三木雅博〈著〉	部数	本体 15,000円(+税) A5判上製カバー装・480頁 2020年12月刊行 ISBN978-4-585-29202-9 C3091
ご送付先ご住所(通信欄)			

# 中国古典文学に

# 描かれた厠・井戸・簪

かわや

かんざし

## ——民俗学的視点に基づく考察

山崎藍 [著]

### 「境界」を探る

中国古典文学に描かれる厠や井戸、それにまつわる道具や、井戸の周囲などを「めぐる」という行為には、どのような観念が存在していたのか。「異空間」のひとつとしても位置づけられている厠、そして厠神の存在。文言小説で描かれる「境界としての井戸」の発想を用いて作られた元稹の「夢井」。白居易「長恨歌」におけるかんざし描写の独自性……古代中国の人々がそれらの場所・道具・行為をどのように認識し、如何にその象徴性を詩歌に反映させたかを綿密な資料調査と分析から考察する。従来、等閑視されてきた民俗学的視点から、詩歌研究の新たな可能性を探る快著。

### 【著者プロフィール】

山崎藍 (やまざき あい)

青山学院大学文学部准教授。専門は中国古典文学。主論文に「京都大学人文科学研究所蔵『天地瑞祥志』第十六翻刻・校注——『醴泉』井」(名和敏光編『東アジア思想・文化の基層構造——術数と』天地瑞祥志』汲古書院、二〇一九年)、「白居易新築府」井底引銀瓶「止淫奔也」に詠われる「瓶沈簪折」について——唐詩に垣間見える術数文化(水口幹紀編『前近代東アジアにおける術数文化』アジア遊学 二四四、二〇二〇年、勉誠出版)などがある。

### 【目次】

緒言

第一章 正と負の厠神  
——中国における厠観

第二章 元稹「夢井」考  
——中国における井戸観

第三章 元稹「夢井」における「邊井」の意味  
——死者を悼む旋回儀礼

第四章 李白「長干行二首 其二」における「邊牀」  
——婚姻に関する旋回儀礼

第五章 李賀「後園鑿井」考  
——釣瓶と轆轤に託されたもの

第六章 白居易「長恨歌」の試み  
——かんざしの喪失と破鏡重圓故事

附 流れる汗・にじむ汗  
——白居易における舞妓の汗描写を中心に

補論一 京都大学人文科学研究所蔵『天地瑞祥志』第十六翻刻・校注  
——『醴泉』井

補論二 日本の古典文学における井戸描写概説

あとがき

主要参考文献一覧

英文摘要・中文摘要

索引(人名索引・作品名索引・書名索引)



本体 九、〇〇〇円(+税)  
A5判上製カバー装・三三六頁  
二〇二〇年十一月刊行  
ISBN978-4-585-29200-5・C3098

<p>書名</p> <p><b>中国古典文学に描かれた厠・井戸・簪</b></p> <p>——民俗学的視点に基づく考察</p> <p>山崎藍 [著]</p>	<p>部数</p> <p>本体 9,000円(+税)</p> <p>A5判上製カバー装・336頁</p> <p>ISBN 978-4-585-29200-5・C3098</p> <p>2020年11月刊行</p> <p>部</p>
<p>ご送付先ご住所(通信欄)</p>	



# 韓国・朝鮮 説話学の 形成と展開



## 金廣植 著

Kim Kwang-sik (キム・クワンシク)

一九七四年韓国生まれ。東京学芸大学大学院修了(博士)。延世大学校・東京理科大学・横浜国立大学・埼玉大学などの非常勤講師、日本学術振興会特別研究員P.Dを経て、『東方学志』実践民俗学研究などの編集委員、立教大学兼任講師。主な著書に、『植民地期における日本語朝鮮説話集の研究』(帝国日本の「学知」と朝鮮民俗学(勉誠出版、二〇一四年)、『植民地朝鮮近現代説話』(民俗苑、二〇一五年)、『近代日本の朝鮮口説文学研究』(寶庫社、二〇一八年)、共編著に、『植民地時期日本語朝鮮説話集資料叢書』全13冊(J&C、二〇一二年)、『二〇一四年』編著に、『近代日本語朝鮮説話集資料叢書』全4冊(寶庫社、二〇一八年)など多数。

近代教育及び植民地経験を経た韓国・朝鮮民間説話の近代的変容を捉える。

日本人研究者の植民地主義・朝鮮人研究者の抵抗民族主義という

二分法的な図式が散見される朝鮮民俗学史。しかし、そこには日本人研究者の

果たした役割とその影響がきわめて大きく、朝鮮民間説話学は近代日本の

学知の影響を受けながら形成されたものであった。

未公開資料・新出資料を含めた膨大な近代資料を収集・整理・分析し、

説話のモチーフや構造的形式の影響関係に注目。

説話の歪曲という観点を乗り越え、近現代の韓国・朝鮮民間説話学の形成過程を

総合的に分析し、個別説話の伝承とその変容を複合的に捉えなおし、

その意味を考察する。東アジア比較民間説話学を新たに再構築する基盤を提供する一冊。

〈もくじ〉

### 序章

#### 第1編 朝鮮総督府学務局の民間伝承調査と教科書

- 第1章 日本と植民地朝鮮で実施された民間伝承調査
- 第2章 朝鮮総督府朝鮮語教科書に収録された俚諺の収録過程
- 第3章 民間説話調査の内容とその意味
- 第4章 朝鮮総督府学務局編輯課と朝鮮民俗資料
- 第5章 朝鮮総督府編纂『国語読本』研究の現状と課題
- 第6章 韓国教科書における伝来童話の収録過程

#### 第2編 朝鮮説話・童話集の刊行と比較説話学の展開

- 第1章 帝国日本の「日本」説話集における朝鮮と台湾
- 第2章 ドイツ文学者田中梅吉と朝鮮初の童話集及び絵本
- 第3章 朝鮮語で刊行された童話集と沈宜麟
- 第4章 朝鮮童話集における改作の様相
- 第5章 1920年前後における日韓比較説話学の展開
- 第6章 孫晋泰の東アジア民間説話論

#### 第3編 韓国・朝鮮民間説話の近代的変容

- 第1章 民間説話の変容と壬辰倭乱(文祿・慶長の役)
- 第2章 植民地期朝鮮における日韓共通の昔話「瘤取り」
- 第3章 韓国における兄弟譚及び隣人譚の変容
- 第4章 朝鮮総督府編修官立柄教俊と「もの言う亀」
- 第5章 植民地期朝鮮における「三年峠」(三年坂)
- 第6章 近現代における「きこりと仙女」(天人女房譚)の展開

### 終章

参考文献 ◎ハンゲル及び漢文文献◎日本語文献  
初出一覧/あとがき/索引

本体 一一、〇〇〇円(十税)

A5判上製カバー装・四六四頁

二〇二一年二月刊行

ISBN978-4-585-29201-2 C3098



書名	部数
<p>韓国・朝鮮説話学の形成と展開</p> <p>金廣植 [著]</p>	<p>本体 11,000円(+税)</p> <p>A5判上製カバー装・464頁</p> <p>2021年2月刊行</p> <p>ISBN978-4-585-29201-2 C3098</p>
ご送付先ご住所(通信欄)	

# 杜甫研究年報

日本杜甫学会「編」

## 「詩聖」杜甫。

その詩は、それ以前の詩の総括であるとともに、以後の中国詩の出発点でもある。

日本においては、五山の僧の崇敬、芭蕉の傾倒があり、明治以後も、中江兆民・島崎藤村・正岡子規を始め、

知識人・国民の間で、その親愛の念は一貫して揺るがないものだった。漢文教育においても、杜甫の詩は教材の中で重要な位置を占めてきた。

世界における杜甫への関心を見つめつつ、変転する時の中で無窮の未来に向かって杜甫研究を発展させ続ける一冊。

### 【最新号】

## 第四号 目次

- 論文 ● 杜甫詩の真偽——「哭長孫侍御」札記——◎後藤秋正
- 論文 ● 杜詩における「齒」について◎大橋賢一
- 論文 ● 杜甫の詩における鷓鴣詠◎高岡遼
- 論文 ● 杜甫、そして白居易へ——「醒」の快適◎下定雅弘
- 論文 ● 杜甫詩における双声疊韻の諸相◎丸井 憲
- 論文 ● 仁甫聖寿抄『統臆断』（慶應義塾大学斯道文庫所蔵）瞥見◎太田 亨
- 「研究概況及び文献収録」
- 書評 ● 『李白と杜甫の事典』（大修館書店、二〇一九・一一）◎後藤秋正
- 日本における杜甫研究集録（二〇一九）◎大橋賢一・加藤聰・紺野達也
- 日本杜甫学会会則・彙報・編集後記

定価 二、二〇〇円(税込)

〔本体二、〇〇〇円〕

A5判並製・一〇四頁

二〇二一年四月刊行

ISBN978-4-585-39444-0 C3098

### 注文書

書名	部数
<b>杜甫研究年報 第四号</b> 日本杜甫学会〔編〕 定価2,200円(税込)/本体2,000円 A5判並製・104頁/2021年4月刊行 ISBN978-4-585-39444-0 C3098	部
<b>第三号</b> 定価2,200円(税込) 本体2,000円 A5判並製・112頁/2020年5月刊行 ISBN978-4-585-29443-6 C3098	部
<b>第二号</b> 定価2,200円(税込) 本体2,000円 A5判並製・88頁/2019年5月刊行 ISBN978-4-585-29442-9 C3098	部
<b>創刊号</b> 定価2,200円(税込) 本体2,000円 A5判並製・116頁/2018年4月刊行 ISBN978-4-585-29441-2 C3098	部
シリーズ <b>杜甫研究年報 〈定期購読〉</b> 日本杜甫学会〔編〕 毎号・定価2,200円(税込)/本体2,000円 A5判並製・約100頁 2018年以降～毎年春頃、年1回刊行	部
<b>【関連書】</b> <b>白居易研究年報 全20巻セット</b> 白居易研究会〔編〕 揃定価107,030円(税込)/本体97,300円 各巻A5判並製	部
ご送付先ご住所（通信欄）	

# ベトナム語 空間ダイクシスと その展開

指示詞から  
文末詞・感動詞へ

安達真弓 著

本体11,000円(+税)・本体10,000円

A5判上製カバー装・268頁

2021年5月刊行

ISBN978-4-585-38001-6 C3087

ベトナム語における

指示詞・文末詞・感動詞の形式的な類似は、  
偶然の産物か。現代ベトナム語における3要素の比較を通して、指示詞から文末詞・感動詞  
へという変化の方向を検証。言語類型論にも新たな実証的データを提供する。  
ベトナム語の指示詞を体系的に扱う、日本初の研究書。

## 本書の特色

- ◎ベトナム語における近・中・遠3系列の指示詞の間の違いを明らかにする
- ◎指示詞・文末詞・感動詞という3要素がダイクシス表現(その解釈に発話の場の情報を必須とする表現)であるという共通項を持つことに着目し、その多様な機能を体系的に整理する。
- ◎自然談話のみならず、戯曲や小説の台詞など、話しことばに近い用例も広く収集するなど、豊富な例文を掲載。

## 目次

はじめに

第1章…先行研究の整理と用語の定義

第2章…ベトナム語の指示詞

第3章…ベトナム語指示詞由来の文末詞

第4章…ベトナム語指示詞由来の感動詞

第5章…おわりに

—ベトナム語指示詞から文末詞・感動詞への文法化

引用したデータ

参考文献

付録:自然談話のデータ

あとがき

## 著者プロフィール

安達真弓 (あだちまゆみ)

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、助教。専門はベトナム語の調査研究。

主な論文に“Vietnamese demonstratives *dây, đó, kia*” (2011年、*Mon-Khmer Studies Journal, Special issue 3*: 1-8)や「ベトナム語の遠称指示詞 *kia* と *kial* について」(2012年、『東京大学言語学論集』32号: 1-9)がある。

書名	部数
ベトナム語空間ダイクシスとその展開 指示詞から文末詞・感動詞へ 安達真弓 著	部
ご送付先ご住所 (通信欄)	

定価11,000円(税込)・本体10,000円

A5判上製カバー装・268頁

2021年5月刊行

ISBN978-4-585-38001-6 C3087

# 日本語 文字論の

# 挑戦

表記・

文字・

文献を考えるための

# 17章



ひらがな・カタカナ・漢字・ローマ字等、世界的にも珍しい多文字種環境を有する日本語。古来、日本人にとって「文字」は、意思疎通のための情報ツールであると同時に、彼我の文化に架橋するための媒体であった。古代から現代までを視野に「書く」「読む」「学ぶ」「残す」という文字の諸機能に着目し、日本語における「文字論」の豊かな世界を示す初めての一冊。

## 加藤重広・岡墻裕剛 〈編〉

かとう・しげひろ ●一九六四年生まれ。北海道大学文学研究院教授(言語科学研究室)。専門は日本語学・言語学。著書に『日本語統語特性論』(北海道大学出版会、二〇一三年)、『言語学講義』(筑摩書房、二〇一九年)などがある。

おかがき・ひろたか ●一九八〇年生まれ。神戸女子大学文学部日本語日本文学科准教授。専門は日本語学表記・漢字。著書に『B・H・チェンバレン』(文字のしるべ)『影印・研究』(編著、勉誠出版、二〇〇八年)などがある。

### もくじ

#### まえがき [岡墻裕剛]

#### 第1部：言葉はどう書くか

日本語の表記システムとその特徴

近・現代小説の片仮名の用法一斑

古代中国語における漢字の表語現象の諸相 [松江崇彦]

#### 第2部：文献をどう読むか

訓点研究「超」入門 [小助川貞次]

篆隸万象名義における漢文節の意味注記について [李媛]

辞書と文献の比較に基づく定訓論の再検討

明治期における基本漢字文献の諸相 [岡墻裕剛]

#### 第3部：文字をどう学ぶか

『文選』の学習——訓点資料を通して見えてきたこと [渡辺さゆり]

変体仮名を学ぶ小学生 [岡田一祐]

#### 第4部：文化をどう残すか

京都の「天橋立」を表す日本製漢字の展開と背景

「蝦夷記」のアイヌ語申渡文における仮名の用法 [佐藤知己]

漢字字体研究と日本語辞書データベースの構築 [池田証壽]

あとがき [加藤重広]・執筆者一覧

定価 七、七〇〇円(税込)  
[本体七〇〇〇円]

A5判並製カバー装・四三二頁  
二〇二一年三月刊行  
ISBN978-4-585-38000-9 C3081

<p>書名</p> <h2>日本語文字論の挑戦</h2> <p>表記・文字・文献を考えるための17章</p> <p>加藤重広・岡墻裕剛 〈編〉</p>	<p>部数</p> <p>定価 7,700円(税込)・本体7,000円</p> <p>A5判並製カバー装・432頁 2021年4月刊行 ISBN978-4-585-38000-9 C3081</p> <p>部</p>
<p>ご送付先ご住所 (通信欄)</p>	

真下厚・遠藤耕太郎・波照間永吉

編 【アジア遊学254】

# 東アジアの歌と文字

## 声から文字へ、文字から声への往還

声の歌が文字化されたのはいつからだろうか。また、文字との出会いによって声の歌はどう変化したのだろうか。日本古代の『古事記』や『万葉集』、近世琉球の『おもろさうし』、中国少数民族の歌垣など、東アジアの様々な時代・地域・民族において創作されてきた歌表現の文字資料・「ミナモト」文学・民俗学・文化人類学の分野から検討し、声と文字との共存・影響関係、豊かな歌文化の諸相を明らかにする。

### 【目次】

【序言】東アジアにおける歌と文字の出会い ●真下 厚

【総論】中国辺境民族の歌と文字のかかわり ●遠藤耕太郎

【総論】琉球歌謡の文字との出会い  
——『おもろさうし』の記載法を中心に ●波照間永吉

### I 日本古代における歌と文字

歌における声と文字の出会いと共存 ●岡部隆志

古代の歌の命

——ある手法の変貌について ●エルマコワ・リュドミラ

### II 琉球王国・沖縄における歌と文字

琉球王国・沖縄における歌と文字 ——おもろさうし ●照屋 理

琉歌と南琉球の抒情歌の文字記録 ●波照間永吉

南島歌謡の記録と伝承の諸相 ——竹富島の巻唄をめくって ●狩俣恵一

### III 中国少数民族における歌と文字

壮族の掛け合いにおける声と文字 ●手塚恵子

ペー祭文における声と文字の往還 ●遠藤耕太郎

中国湘西苗族の歌と文字 ●真下 厚

### IV 資料紹介

宮古の古謡と神歌 ●本永 清

ペー族の祭文 ●遠藤耕太郎

必定財前途  
一路布教心  
也布即檢抄  
記肝靴往住  
仲怪古小妹  
嘉哈礼托他  
男女可分浮  
勞伝詳是節  
山伯吐双泡  
刺故花凍滄  
翁一也添朱  
卷一路益花  
到道橋承礼  
香落山字了  
錫獎坊途鶴

### 【編者紹介】

真下 厚 (ましもとあつし)

元立命館大学教授。専門は日本古代文学・民俗学。

主な著書に『歌を掛け合う人々 東アジアの歌文化』(共著、三弥井書店、二〇一七年)などがある。

遠藤耕太郎 (えんどうこうたろう)

共立女子大学文芸学部教授。

専門は日本古代文学と中国少数民族文化。

主な著書に『万葉集の起源—東アジアに息づく抒情の系譜—(中公新書、二〇一〇年)などがある。

波照間永吉 (はてるまえいきち)

名城大学大学院国際地域文化研究科(後期博士課程)。

専門は歌謡呪。

主な編著書に『定本 おもろさうし』(外間守善と共編著、角川書店、二〇一二年)、などがある。



本体 2,800円(+税)  
A5判並製カバー装・208頁  
ISBN978-4-585-32500-0 C1390  
2021年2月刊行

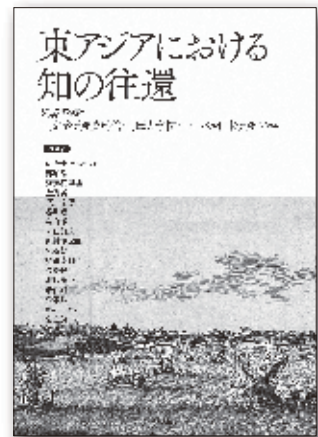
書名	部数
東アジアの歌と文字 【アジア遊学No.243】 真下厚・遠藤耕太郎・波照間永吉 [編]	本体 2,800円(+税) A5判並製カバー装・208頁 2021年2月刊行 ISBN978-4-585-32500-0 C1390
ご送付先ご住所 (通信欄)	

国文学研究資料館・高麗大学校グローバル日本研究院

〔共編〕

# 東アジアにおける知の往還

〔アジア遊学255〕



## 東アジアにおける知の動態を明視する

気候危機にパンデミック、市民間の分断…。生命をも脅かす大きな困難が次々に起こる現代、我々はいかにして大量の情報を「個」として的確に受け止め、判断の材料に変換できるのか。そのための「知」を下支えするものの根拠を豊富な文献に求め、歴史的経験を留めた表現の集合体から照射することで新規の問いかけに繋げる。文学史、美術史、思想史、歴史学、アーカイブズ学など、多面的な視角から、東アジアにおける知の往還を描き出す。

### 〔目次〕

序

刊行によせて●ロバートキャンベル

刊行によせて●鄭炳浩

本書の企画と構成●齋藤真麻理・金秀美

### I 書物と文化

『栄花物語』と朝鮮王朝の宮廷文学

——『閑中録』との比較を中心として●桜井宏徳

遺稿集の季節——二十世紀前半の日本の言説編制●谷川恵一

近代日本の元寇図と『蒙古襲来絵詞』●金容澈

（コラム）絵画と文字の表現コード

——『源氏物語絵巻』を読み解く●金秀美

（コラム）奈良絵本と『徒然草』

——ジャンルを往還するメディア●齋藤真麻理

（コラム）正方形の本をめぐる●入口敦志

### II 記録と記憶

日本と韓国の災難文学と記憶

——セウォル号沈没事件と東日本大震災の災難詩を中心として●鄭炳浩

近代福島県富岡町小良ヶ浜の文書管理——複合災害・縁故地・区有文書●西村慎太郎

（コラム）『三国遺事』を巡るいくつかの知見について●宋洗範

言語と滅刑——森鷗外『高瀬舟』において●野網摩利子

（コラム）在日朝鮮人「帰国事業」の記録と記憶の文学●金季杼

### III 都市という舞台

江戸における巨大寺院の復興と講中——築地本願寺の場合●渡辺浩一

日本の伝統詩歌に描かれた大都會の風土●嚴仁卿

（コラム）『京城日報』と近代都市京城の表象

——横光利一の満鉄招請文学講演旅行と「天使」を中心に●金孝順

パリが主人公

——レティフとメルシエの作品とパリの文学的神話の誕生●ギョーム・カレ

（コラム）日韓の西洋探偵小説における都市表象

——エミール・ガボリオの『ルージュ事件』を中心に●倉在真

定価 3,080 円(税込) 本体 2,800 円  
A5 判並製カバー装・200 頁  
ISBN978-4-585-32501-7 C1395  
2021年4月刊行

<p>書名</p> <p><b>東アジアにおける知の往還</b></p> <p>【アジア遊学No.243】</p> <p>国文学研究資料館・高麗大学校グローバル日本研究院 〔共編〕</p>	<p>部数</p> <p>定価3,080円(税込)/本体2,800円</p> <p>A5判並製カバー装・200頁</p> <p>2021年4月刊行</p> <p>ISBN978-4-585-32501-7 C1395</p> <p>部</p>
<p>ご送付先ご住所（通信欄）</p>	